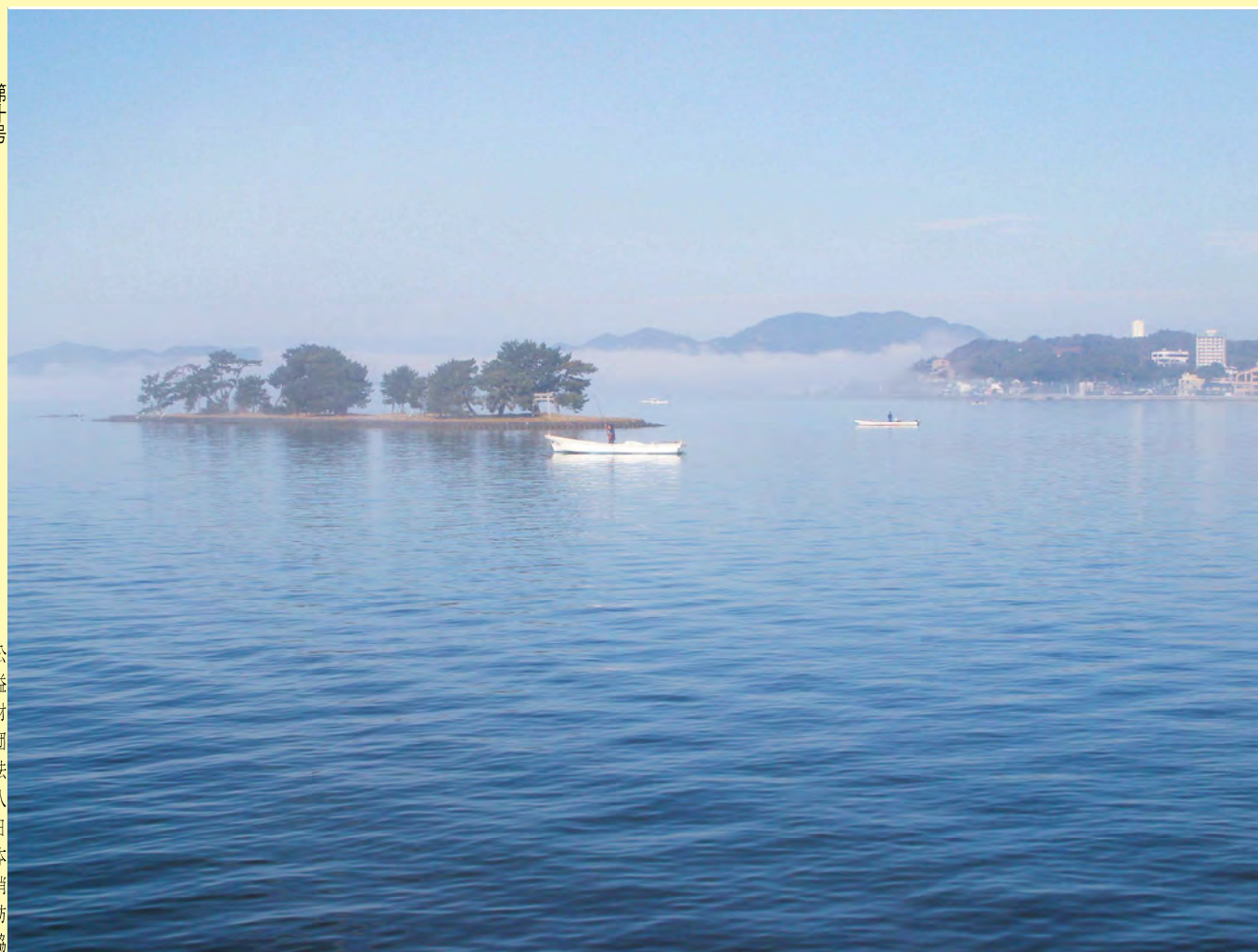


日本消防



- 第44回全国消防殉職者慰霊祭を開催
- 「地域総合防災力の発揮」大会を開催
- 令和7年度全国少年消防クラブ交流大会を開催
- ぼうさいこくたい2025 in 新潟 「地域総合防災力の発揮」

□ 絵 第44回全国消防殉職者慰霊祭
「地域総合防災力の発揮」大会

巻頭言 「消防団」の活性化に向けて」……………	(公財)千葉県消防協会 会長 石橋 毅 ……	1
「全国消防殉職者遺族会理事会」を開催……………	全国消防殉職者遺族会 ……	3
日消の動き 消防の「戦後80年」、いろいろです。……………	(公財)日本消防協会 会長 秋本 敏文 ……	4
第44回全国消防殉職者慰霊祭を開催……………	(公財)日本消防協会 ……	5
「地域総合防災力の発揮」大会を開催……………	(公財)日本消防協会 ……	11
日本消防協会臨時理事会等を開催……………	(公財)日本消防協会 ……	16
特別表彰「まとい」を受賞して 「郷土愛の精神」……………	滋賀県 高島市消防団 団長 川島 清治 ……	17
東西南北 (新潟県)「胎内市消防団の取り組み」……………	胎内市消防団 団長 宮嶋 等 ……	19
東西南北 (島根県)「自分たちの地域を守るために」……………	邑南町消防団 団長 倉見 譲 ……	21
東西南北 (広島県)「地域のヒーローたちが繋ぐ未来」……………	江田島市消防団 団長 川端 睦夫 ……	23
シンフォニー (石川県)「小さな分団の地道な取り組み」……………	白山市北消防団女性分団 分団長 森 みどり ……	25
消防団加入促進への取り組み 消防団活動の「見える化！」……………	奈良県 桜井市消防団 ……	27
災害活動報告 令和7年今治市林野火災に伴う今治市消防団・西条市消防団・松山市消防団の活動について……………	(公財)愛媛県消防協会・今治市消防団・西条市消防団・松山市消防団 ……	29
令和7年度全国少年消防クラブ交流大会を開催……………	(公財)日本消防協会 ……	33
ぼうさいこくたい2025 in 新潟 「地域総合防災力の発揮」……………	(公財)日本消防協会 ……	38
令和7年度(第41回)防火ポスターコンクール審査結果……………	(生協)全日本消防人共済会 ……	41
消防育英会臨時理事会を開催……………	(公財)消防育英会 ……	43
うちの団のPR 「消防団員の負担軽減と独自の取り組みについて」……………	新潟県 村上市消防本部・村上市消防団 ……	44
うちの名物団員……………	新潟県、千葉県、石川県、兵庫県、島根県、広島県 ……	45
消防団の広場(兵庫県) 訓練は、いざという時のために。……………	神戸市西消防団 団長 穴田 泰久 ……	47

編集後記

表紙写真説明

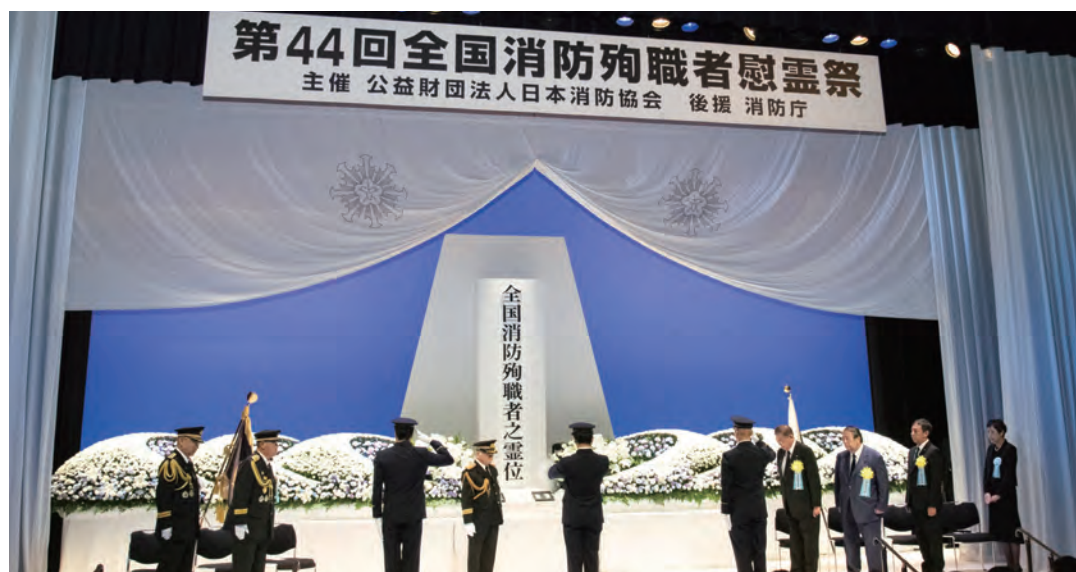
「震たなびく幻想的な宍道湖に浮かぶ嫁が島」

この秋から「怪談」などの作品で知られる明治時代の文豪小泉八雲・セツ夫婦をモデルにしたNHK(日本放送協会)の連続テレビ小説「ばけげ」の放送が始まりました。宍道湖は八雲とセツが訪れたゆかりの地のひとつです。

写真提供者：(公財)島根県観光連盟

第44回全国消防殉職者慰霊祭

(5頁～10頁に掲載)



「地域総合防災力の発揮」大会

(11～15頁に掲載)



『“消防団”の活性化に向けて』

(公財)千葉県消防協会 会長 石橋 毅



千葉県消防協会は、昭和23年の発足以来、本年で77年目を迎えました。この間、県民の身体、生命及び財産を守る消防職員・消防団員の活動支援や消防防災思想の普及などにより、地域の安全・安心を支えるべく様々な活動を行ってまいりました。

1 消防団員数の状況

私たちの住む千葉県では、現在31消防本部に勤務する職員約8千人、48消防団の団員が約2万3千人、合わせて約3万1千人の消防職・団員が約630万人県民の安全・安心を守っているところです。

しかしながら、今から約70年前の昭和30年の消防団員数が約8万6千人であり、これと比較すると現在の団員数は当時の三分の一程度にまで落ち込んでおり、地域防災力の向上を目指す私たちとしましても、憂慮すべき事態であると認識しております。

団員数の減少理由としては、「就業形態の変化によるサラリーマン団員の増加」、「少子高齢化による若年層の減少」、「地域住民の消防団活動への理解不足」、「地域社会への帰属意識の希薄化」、「消防団活動への負担感」などの様々な事由が挙げられています。

これらの課題に取り組んでいくには、我々消防に携わる一人ひとりが、消防団を取り巻く環境が制度発足当時と比べ、大きく変容している状況をしっかりと認識し、現代の若者の考え方やライフスタイルの変化等を柔軟に受け止め、対応していくことが大切であると考えます。

2 千葉県消防団活性化検討会

千葉県では、一昨年、有識者、県内消防団及び消防職員、県及び消防協会で構成する「千葉県消防団活性化検討会」を設置しました。この中で県内全ての消防団員に対し、アンケート調査を実施、その声をもとに様々な課題について検討を行いました。

この調査で、団員が日ごろ消防団活動に対し、どのような負担を感じているのか、処遇等に対しどのような不満を持っているのか、改めて認識するとともに、消防団活動の実態についても把握することができ、今後、解決すべき課題等についての共通認識が図られました。

アンケート結果をみると、「操法訓練や行事などの活動の負担」、「実践的訓練の不足」、「旧態依然とした体質」、「報酬などの処遇への不満」、「団の運営に係る会計処理」、「やりがいの喪失」、「消防操法大会に向けた訓練の負担」など、様々な声が挙がってきました。

その一方で、消防団活動を通じ、「知人や仲間が増えた」、「防災意識が高まった」、「消防や救命の技術が身についた」、「地域から頼られる存在となった」、「仲間との絆が深まった」、「生まれ育った地域に貢献できる」等の前向きな意見も確認することもできました。

3 県消防操法大会の見直し

協会と県では、この検討会の結果等も踏まえ、団員の負担軽減を図る観点から、これまで毎年度実施していた県消防操法大会を全国

消防操法大会千葉県代表選考会として隔年開催としたほか、開会式や閉会式などの式典自体も簡素化したところです。

また、併せて各消防団に対しては、選考会のない年は、より実践的な訓練に重点を置き、団員の技術向上に努めるよう働きかけたところです。

県では、今年度、実災害での活動経験や訓練機会が少ない団員を対象に、器具取扱い等の基本訓練はもちろん、最新のVRを導入し、災害現場を疑似体験させ、活動時の安全確保や的確な活動に資する訓練など、災害対応力を強化するための研修を計画しているところです。

各消防団においても、それぞれの地域における災害特性等を勘案し、日頃の訓練内容を見直すなど、効率的な団運営に努め、団員の負担軽減やモチベーション向上を図りながら、魅力ある消防団となるよう取り組む必要があると考えています。

4 消防団活性化に向けた取組事例

協会では、女性消防団員向けの取組として、「女性消防団員活性化シンポジウム」を毎年度開催しており、外部講師による講演及び県内女性消防団の活動事例報告、情報交換会等を実施しています。

消防団員の減少が止まらない状況ではありますが、女性団員については徐々に増える傾向にあることから、引き続き、女性をターゲットとした事業も継続してまいります。

また、県においても近年、若者や女性をターゲットとした啓発を展開しており、若者向けの取組の一例として、大学生を中心とした若年層に対し、消防団の必要性の理解を深めるため、学園祭において、心肺蘇生法体験、水消火器を使用した消火体験、子供向けの防火衣試着など、学生消防(隊)団と連携したイベントを実施しています。

このほか、若者の消防・防災意識の向上や

消防活動に対する理解促進を図るため、県内在住・在学の若者を対象に「消防学校1日入団・入校体験会」を実施し、規律訓練や救急、放水、AFT(模擬消火訓練装置)訓練、ロープ結索、消防学校教官との座談会等を行っており、毎年多くの学生が参加しています。

更に高校生以上の若者を対象に「ちば消防防災セミナー」を開催し、講師として気象予報士を招き、近年、全国で多発している気象災害について学ぶとともに、災害発生時に地域での活動を模擬体験できるSUG(災害対応運営ゲーム)体験を併せて開催したほか、県内で活躍している学生消防団の活動紹介等、盛りだくさんの内容で実施しました。

若者の間で身近なコミュニケーションツールである「LINE広告」を活用した啓発なども行っています。

5 消防団活性化に向けた今後の取組

このように様々な取組を行っていますが、消防団員の加入促進は思うようにいかない状況が続いており、一足飛びの解決は困難な状況です。

継続は力なりという言葉があるように、地域住民への理解を深めていく取組は、決して無駄なことではありません。

直接的な団員の増加に繋がらなくとも、それ自体は地域住民の防災意識高揚のきっかけとなり、地域防災力の向上に資する大切な取組になるものと考えます。

現在、私は日本消防協会の「消防団員確保対策委員会」委員長として、消防団員の確保等に取り組んでおりますが、引き続き、微力ではありますが、消防団の活性化のお役に立てるよう、誠心誠意努めてまいりますのでご協力の程よろしくお願いいたします。

終わりに、日本消防協会並びに各都道府県消防協会の益々のご発展と、全国の消防団員の皆様のご健勝とご多幸を祈念させていただきます。

「全国消防殉職者遺族会理事会」を開催

全国消防殉職者遺族会

令和7年9月10日(水)、日本消防会館において「全国消防殉職者遺族会理事会」を開催しました。

1 議事

第1号議案 令和6年度事業報告及び決算(案)について(監査報告)

2 報告事項

- (1) 消防育英会奨学金の給付対象拡大及び給付額改定について
- (2) 消防育英会令和6年度奨学生及び奨学金等の状況等について
- (3) 消防育英会令和7年度奨学生の申請及び判定状況等について
- (4) 令和7年度奨学生懇談会の実施結果について

3 その他

第44回全国消防殉職者慰霊祭について

議事については、異議なく承認されました。

理事会閉会后、14階の全国消防殉職者慰霊碑に参拝しました。



理事会の様子



慰霊碑前での記念撮影

消防の「戦後80年」、いろいろです。

(公財)日本消防協会 会長 秋本敏文

日本の歴史をふり返るなかで、昭和100年とか、戦後80年とかが話題になります。消防にとっては、第2次大戦後の自治体消防制度発足から70数年ですが、この間、消防活動にとって対象となる災害の状況、地域社会の状況等の変化への対応のなかでいろいろな変化、発展の歴史があります。

日本消防協会としては、ふり返りますと1903年(明治36年)発足の大日本消防協会が名称としては前身のような感じがしない訳でもありませんが、やはり自治体消防制度発足とともに成立した現在の日本消防協会発足からの歩みがその歴史と考えるべきでしょう。そのように考えますと、1947年設立以来間もなく80年となります。その歩みは先人の皆さんのご活躍により本当にさまざまです。

そのなかでも、1975年笹川良一会長ご就任、1981年日本消防会館完成後の事業展開は、現代につながっています。先日、9月11日(木)に全国消防殉職者慰霊祭を執り行いましたが、これが第44回の慰霊祭でありまして、第1回は、1982年(昭和57年)でした。この間、近年ではコロナウイルス問題の時は、参列者不在という異例なこともありました。大切に受けついでいます。特別表彰「まとい」をさしあげる定例表彰は1980年(昭和55年)からです。また、第1回婦人消防操法大会は1985年(昭和60年)でした。これらも、若干の変化はありますが大切に受けついでいます。こうしてふり返りますと、笹川会長の時に、日消会館完成、ここに記載したもの以外にも含めていろいろなイベントを始めて頂いています。勿論その後も全国女性消防団員活性化大会を開催するなどしていますが、これからも、当面する日本消防の課題解決への前進にとって有益な事業を充実させなければなりません。最近では、地域の皆さん総参加総活躍による地域の総合的な防災力の充実強化、その中核となる消防団の体制強化、その基盤となる国民の皆さんのご理解ご関心の向上を意識した事業が目立つだろうと思いますが、消防活動に関係のある幅広いお立場の方々との交流、さらに国際的な情報交流など、まだまだ、いろいろありそうです。日本消防協会の歩みをふり返りながら、新会館の機能を一層活かす事業展開をさらに、みんなで考えていきたいですね。勿論、それを実現するための資金確保の努力も必要ですが。

第44回全国消防殉職者慰霊祭を開催

(公財)日本消防協会

9月11日(木)、ニッショーホールにおいて第44回全国消防殉職者慰霊祭を執り行いました。
全国から多数のご遺族の方々にご参列頂き、約500名のご参列者のもとで挙行することができました。
今回、新たに合祀された御霊は5柱で、これまでの合祀数は5,795柱となりました。



第44回全国消防殉職者慰霊祭

石破内閣総理大臣、村上総務大臣、防災担当大臣(代理・鳩山内閣府副大臣)をはじめとするご来賓並びにご遺族、全国消防関係者など多数の方々にご参列され、御霊の奉納、国歌斉唱、黙とうの後、(公財)日本消防協会 秋本会長の式辞に続いて、石破内閣総理大臣、村上総務大臣から追悼のことばをいただき、続いてご遺族を代表して滋賀県の青木由美様が追悼のことばを述べられました。

その後、参列者による献花と江戸消防記念会による鎮魂の歌(木遣り)が行われ、秋本会長のあいさつで式典は終了しました。



参列状況



日本消防協会旗入場

式辞

(公財)日本消防協会 会長 秋本 敏文

全国からご遺族をお迎えし、ご来賓の方々のご参列を頂きまして、これより、第44回全国消防殉職者慰霊祭を執り行います。ご協力いただきました方々に厚くお礼申し上げます。

殉職事故が生ずることがないよう、関係者それぞれのお立場で力を尽くして頂いていますが、今年も新たに5柱の御霊を合祀することとなりました。それぞれ、消防使命達成のため全力を尽くして頂いたなかでの殉職であり、そのご尽力に深く感謝申しあげ、心から敬意を表するものがございます。

特に近年は、地球環境の変化を背景として、世界的にさまざまな災害が発生しておりますが、日本では地震、津波、台風などが各地で発生しており、社会インフラの老朽化に伴う事故なども加わり、これまでと様相が異なるさまざまな災害が発生しています。消防の任務は益々増大しているのですが、一方では、地域環境の変化などの中で消防団員等の減少が続いています。

消防はそのようななか、消防使命達成のため力を尽くし、そして、事故防止に努めておりますが、今後さらに関係情報の収集等に努力して事故防止に万全を期さなければなりません。

慰霊祭の開催にあたり、そのことの決意を改めて申しあげさせていただきます。

最後に、殉職された御霊の安らかなご冥福を心からお祈り申し上げますとともに、私どもは消防育英会の事業につきましてもできる限り配慮しているところでございますが、ご遺族の皆様のご健勝ご多幸をお祈り申しあげまして、慰霊祭開催にあたってのごあいさつとさせていただきます。



秋本会長による式辞

追悼のことば

内閣総理大臣 石破 茂

第四十四回全国消防殉職者慰霊祭に当たり、謹んで追悼の言葉を申し上げます。

このたび新たに祀られた五名の消防業務従事者の御冥福をあらためてお祈りし、御霊の安らかならんことを切に祈ります。

皆様は、消火・救助活動や訓練の場において、「地域住民の命を自分たちが守る」という崇高な決意の下、その責務を全うされ、尊くも犠牲となりました。

皆様方が身をもって示されたその強い使命感と勇気に対し、衷心より敬意と感謝の誠をささげます。

愛する御家族を失われた御遺族の深い悲しみを思うと、悲痛の念に堪えません。御遺族の皆様方に対し、衷心よりお悔やみを申し上げます。

近年、建物の大規模化、高層化が進む中、火災の様相が複雑になり、消防活動は困難の度を増しております。加えて、大雨、台風による被害が相次ぐとともに、首都直下型地震、南海トラフ地震などの大規模地震の発生も懸念をされております。これらは来るか来ないかではない。いつ来るか、このような切迫性を有しております。このような中、先陣を切り災害の現場に駆けつけ、我が身の危険を顧みず、身を挺して活動される消防職員・消防団員の皆様に、国民は大きな信頼と期待を寄せています。

私たちは、これまでに祀られた五千七百九十五柱の御霊の尊い犠牲に思いを致し、その御遺志にこたえるため、災害に強い、安全で安心な国づくりに力を尽くしてまいります。これは国家の国民に対する責務であり、一刻の猶予も許されるものではございません。

結びに、御霊の安らかならんことをお祈り申し上げますとともに、御遺族の皆様方の御平安を心より祈念をいたし、追悼の言葉といたします。



石破内閣総理大臣による追悼のことば

追悼のことば

総務大臣 村上 誠一郎

第四十四回全国消防殉職者慰霊祭に当たり、謹んで追悼の言葉を申し上げます。

火災や地震、台風、集中豪雨などの災害から国民の命を守る消防の活動は、多くの危険や困難と隣り合わせです。

本年は、岩手県大船渡市、愛媛県今治市などにおける大規模な林野火災、八月には広域で線状降水帯による大雨が発生するなど、日本各地で災害が相次いでおります。

近年の災害は激甚化、頻発化しており、消防の現場において活動される皆様の御尽力に、深く感謝申し上げます。

本日、新たに祀られる五柱の御霊は、地域住民の安全を守るという強い使命感の中で、尊くも犠牲になられた消防職員・消防団員であります。

さらに、先月十八日には、大阪市のビル火災において二名の消防職員が消防活動中にお亡くなりになる事故も発生しました。

志高い消防職員・消防団員を失ったことは、消防行政を所管する大臣として、痛恨の極みであり、御遺族の皆様に対し、心からお悔やみを申し上げます。

尊い犠牲となりました先人の御遺志にこたえるためにも、今後の大規模災害に備え、地域の消防防災体制の充実強化に最善の努力を尽くしてまいります。

また、国民の生命を守るために、そして人命確保に努める消防職員・消防団員自身の身を守るために、活動時の安全対策など様々な施策を推進してまいることが私どもの責務と考えます。

ここに改めて、御霊の心安らかならんことをお祈り申し上げ、まだまだ深い悲しみの癒えない御遺族の皆様方の御平安を心より祈念申し上げます。



村上総務大臣による追悼のことは

追悼のことは

ご遺族代表 滋賀県 青木 由美

第四十四回全国消防殉職者慰霊祭が執り行われるにあたり、全国消防殉職者の遺族を代表して、追悼の言葉を申し上げます。

本日は、日本消防協会をはじめ、全国消防関係者の皆様のご厚情により、石破内閣総理大臣をはじめ多数の方のご臨席のもと、このような厳粛な慰霊祭が執り行われ、御霊の安らかなご冥福と、私たち遺族に対しても温かいお言葉を賜りましたことに、心から感謝申し上げます。

息子は、昨年の八月一日に、救助訓練中の事故により帰らぬ人となりました。あまりにも突然の出来事で、なかなか現実を受け入れることが出来ず、悲しく苦しい日々が続きました。今でもまだ、事実を信じたくない気持ちもありますが、消防本部をはじめ、たくさんの方々から親身で温かいご対応をいただき、少しずつ前を向いて、歩み始めなければと思っております。

また、故人に対しまして、身に余る賛辞を賜りましたことに、重ねてお礼を申し上げます。

息子の在りし日の消防活動に励む姿を思う度、悲しみを繰り返しますが、地域の安全・安心・命を守るという、崇高な消防の使命に殉じたことは、私たちにとって大きな誇りです。

私たちは、このことを心のより所とし、残された家族で助け合い、たくさんの方々の励ましとご支援に感謝しながら、心をひとつにして、苦しみや悲しみを乗り越えてまいりますので安心して、天国から見守っててください。

終わりに、御霊の安らかなるご冥福をお祈りいたしますとともに、本日ご参列の皆様のご健勝と、全国の消防人の方々の安全を心からお祈り申し上げ、追悼の言葉とさせていただきます。



ご遺族代表 青木由美様による追悼のことは



御霊の奉納



消防殉職者に対する黙とう



秋本会長による献花



ご遺族代表による献花



石破内閣総理大臣による献花



村上総務大臣による献花



防災担当大臣代理 鳩山内閣府副大臣による献花



江戸消防記念会による鎮魂の歌(木遣り)



都道府県別消防殉職者合祀数

都道府県名	殉職者(柱)
北海道	235(1)
青森県	69
岩手県	179
宮城県	174
秋田県	48(1)
山形県	58
福島県	128
茨城県	82(1)
栃木県	81
群馬県	93
埼玉県	82
千葉県	96
東京都	85
神奈川県	181
新潟県	130
富山県	69

都道府県名	殉職者(柱)
石川県	50
福井県	42
山梨県	86
長野県	158
岐阜県	78
静岡県	235
愛知県	262
三重県	45
滋賀県	47(1)
京都府	44
大阪府	220
兵庫県	436
奈良県	40
和歌山県	95
鳥取県	18
島根県	20(1)

都道府県名	殉職者(柱)
岡山県	75
広島県	825
山口県	101
徳島県	46
香川県	35
愛媛県	65
高知県	54
福岡県	228
佐賀県	31
長崎県	308
熊本県	87
大分県	83
宮崎県	66
鹿児島県	94
沖縄県	31
合計	5,795(5)

()は、新合祀数



「地域総合防災力の発揮」大会を開催

(公財)日本消防協会

近年、災害の様相変化、地域社会の変容等に対処しながら、国民の、そして、地域の安全を守るためには、地域防災力充実強化法に基づく、地域の皆さん総参加総活躍による地域防災力の充実強化が益々重要となっているが、課題も多くあります。

そこで、できる限り幅広い皆さんのご参加のもと、情報交流、協議を進めて、地域総合防災力の充実を一段と高め、国民の皆さんの安全をより確実にしようとするため、令和7年9月11日(木)午後2時から日本消防会館のニッショーホールにおいて「地域総合防災力の発揮」大会を開催させて頂きました。

開会には主催者挨拶として日本消防協会会長の秋本敏文から、地域防災力の充実強化ということについて、30年前、阪神淡路大震災の体験から、緊急消防援助隊という全国的な応援体制を創設した時に、同時に地域の皆さんのご協力による地域防災体制も重要だという議論を始めたのですが、これは東日本大震災後にこのことを国の方針としても明確化する新しい法律を制定して頂きまして、本格的な動きが始められるようになり、今日まで、国をはじめとして様々な取組みを進めています。昨年も地域防災力充実強化を目指す大会を開催したのですが、色々な動きをしていますと、地域の皆様に幅広くご参加頂いて、視野広く、様々なご活動を展開して頂いて、いわば、皆様、総参加総活躍の地域防災体制が益々大事だと思えるようになりました。そこで、この度の大会はあえて「地域総合防災力の発揮」を目指す大会とさせて頂きました。これからの地域防災体制の一層の充実にとって、有意義な大会となることを祈念しています旨の挨拶がありました。

ご来賓のご挨拶は、総務大臣政務官の古川直季様から、日頃より消防・防災活動に従事され、地域の安心・安全の確保のためにご尽力頂いておりますことに改めて感謝を申し上げるとともに、近年、全国で災害が激甚化・頻発化し、本年においても岩手県大船渡市をはじめとした大規模な林野火災による被害や大雨による北陸や九州地方を中心とした被害があり、総務省としては消防団や自主防災組織等の活性化や地域の防災リーダー育成など、今後も「共助」を担う人材が確実に確保され、能力を高め、地域の防災力が高まるよう、最善の努力を尽くしてまいりますとのご挨拶を頂きました。



秋本敏文 日本消防協会会長



古川直季 総務大臣政務官

地域防災をめぐる活動事例発表

島根県の半島防災の取組みについて

島根県知事 丸山 達也氏

令和6年1月1日(月)に発生した能登半島地震を受けて、同じ半島を有する島根県にとっても他人事ではないと考え、様々な取組みを展開しています。能登半島地震では多くの孤立地域が発生したことを踏まえ、島根県ではヘリポートの調査を実施。陸上自衛隊のパイロットの協力を得て、大型・中型ヘリコプターが離発着できる場所を確認し、72か所が離発着可能という評価を頂きました。昨年7月の豪雨災害において実際に孤立地域が発生した際、2月、3月に確認していたヘリポートを使って、人工透析の患者を円滑に救助輸送しています。また、令和6年度の当初予算で自ら情報



を入手する手段として高性能ドローンを2機購入し、ドローンチームを編成、県職員には国家資格を取得させています。新たに悪路走行可能な小型自動車を購入し、孤立地域の被害状況の映像をリアルタイムで配信する体制を整えています。また、島根県では一つ目として災害発生時における炊き出しや避難所開設・運営などについて、県職員自身がやれる能力を持っておくという自立執行力の向上に取り組んでいること。二つ目として大きな災害が発生した場合、自衛隊や海上保安本部にお世話になるため、受け入れ側である島根県側の受援力の向上に取り組んでいることや避難所用のトイレカー、キッチンカー、民間の宿泊施設の利用、更には他県からの円滑な応援職員受け入れのために民間事業者と協定を結んでいること。三つ目として島根半島部を孤立させないこと、仮に孤立が発生したとしても救助を可能にするため、道路の改良や法面・落石対策、漁港の修繕、実動組織受け入れのためのヘリポート整備等、10年間で約103億円の「島根半島震災対策事業」を実施していくこととしています。災害がいざ起きた時の準備、あらかじめできる準備を、できる限りやっていこうという考え方で島根半島における総合防災力の向上を図っていきたいと考えております。

「防災力」～人と地域が共に支え合うまちづくり～

岩手県一関市藤沢町婦人消防協力隊 隊長 千葉 とき子氏

藤沢町婦人消防協力隊は昭和46年に防火防災意識の強化と連携を図るため組織され、昭和49年4月に4分隊行政区の単位43班からなる藤沢町婦人消防協力隊として組織の編成を行い、現在は206名の隊員で構成。令和6年度には結成50年を迎えている。これまでの活動実績として、一つ目は「町」と「住民自治会」とのつながりで活動していることです。藤沢町婦人消防協力隊は全戸加入で2,349世帯が協力会員で消防団の後方支援、消防団と一緒に防火点検や訓練など自主防災組織のリーダーとして地域の防災活動を行っており、43自治会の自主防災組織とともに連携して活動を行っています。町民の高い防火・防災の意識と地域を守る熱意が強く、協力隊に対し全戸から年200円の防火協力費を頂き、全戸に火の用心バケツや持ち出し袋、手作り防災マップを配布しています。二つ目は婦人消防協力隊は各種他団体とのつながりの中で活動しており、東日本大震災では大きな力となり、支援の輪とコミュニケーションが発揮されました。また、他の団体と一緒に福祉活動なども取り組んでおり、バザーの売上金は福祉施設に寄付しています。最近の取り組みとしては、消防団と自治会と協力しながら、地域の危険箇所を抽出して、町内全43行政区の防災マップを作成し、全戸配布。毎年、重点活動目標を定め隊員一丸となって防火・防災及び火災予防を展開し、安全・安心のため積極的に活動しています。三つ目は「消防団」とのつながりの中で活動をしていることです。消防、防災関係者900人が参加した岩手県消防協会一関地区支部消防連合演習において、藤沢町婦人消防協力隊と自主防災組織の皆さんが協力してバケツリレーによる初期消火活動を行い、迅速かつ的確なバケツリレーは十分な効果があることを確認することができ、多くの人々や団体の連携が重要であることが改めて分かりました。また、災害時対応研修として、ビール缶を使用した炊飯やお菓子を使用したポテトサラダ作り、段ボールを使用した簡易トイレ製作など、藤沢町は町民一体となってみんなの支援の輪、老いも若きも一緒になって共同のまちづくりを進めています。今後の活動においても、人と人との絆をつなぐ活動を続けて参りたいと思います。



聴覚障害者理解が深化した地域づくりへの取り組み

～情報保護の重要性が意識された地域へ～

愛知県豊橋市 豊橋手話ネットワーク 副代表 平松 靖一郎氏

手話言語条例や情報コミュニケーション条例が全国的にスタートしていく中で、聴覚障害者及び聴覚障害者支援団体が市民レベルで共に活動しているというモデルを体現しようということで、ろうあ連盟や手話通訳士協会など様々な関係団体と共に手話ネットワークを結成。東日本大震災の時、本当に聞こえないことによって逃げ遅れたろう者も出たということが伝えられました。聞こえていれば助かった命。ろう者にとっては手話が見えるということがとても大事です。また、ろう者にとって避難所での孤立問題もあります。手話を使う人がいたり、絵や文字による情報伝達による支援など、具現化して活動しな



ければいけないと考えました。実際に災害で困った聴覚障害者のストーリーを紙芝居にして、学童に読み聞かせ活動をしたり、絵カードの紙芝居を作成しています。阪神淡路大震災、東日本大震災の時、ほとんど避難所では音声中心の情報提供がなされていることから、聴覚障害者のためにはカードをもっともっと作って、広めていかないとはいけません。また、豊橋の場合、一時避難所、二次避難所で約200箇所ありますが、聴覚障害者が孤立する可能性のある避難所を前もって把握し、そこに優先的に支援に入るようにしています。避難所でのお知らせ絵カード等を市内全ての避難所や福祉避難所、関係団体に寄贈しており、全国各地の自治体等にも無償提供しています。また、支援ツールの多言語化に取り組んでおり、現在、8か国語に対応できる絵カードに発展させて活用の輪が広がっています。また、災害発生時に目視で要支援者と支援者が確認できる「防災バンダナ」を作成し、日常の訓練から使い続けています。小学校校区の防災訓練や県の総合防災訓練にも積極的に参加しています。薬剤師会とは薬に関する絵カードを普及させており、全国で50箇所以上に提供していますし、歯科に関する絵カードも広めており、情報さえあればみんなと一緒にできるということを合言葉に活動を続けています。

シンポジウムの開催 テーマ 地域総合防災力の発揮

後半は、更にこのテーマについて深掘りをしていくためにシンポジウムを開催しました。パネリストは消防庁国民保護・防災部防災課長の天利和紀様、岡山県倉敷市長の伊東香織様、東京大学先端科学技術研究センター教授の廣井悠様、岩手県一関市藤沢町婦人消防協力隊隊長の千葉とき子様、愛知県豊橋市豊橋手話ネットワーク副代表の平松靖一郎様のご登壇を頂き、進行役は日本消防協会会長の秋本敏文により開催しました。

最初に倉敷市の伊東市長から、平成30年7月の西日本豪雨により、倉敷市真備町において高梨川水系小田川の堤防が決壊し、大規模な浸水被害が発生しましたが、その水害の起こった状況と、そこから復旧を遂げていくまでの過程について説明がありました。「7月6日(金)～7日(土)にかけて降った豪雨は、国管理河川の小田川の堤防2箇所、県管理河川の末政川、高馬川、真谷川の堤防6箇所が決壊し、これら堤防の決壊により真備地区の1,200haが浸水し、深さは約5mに及びました。直接の水害でお亡くなりになられた方が52人、災害関連死の方が23人という大災害でした。多くの方は屋根の上に上がり、屋根の上から2,350名以上の方々を自衛隊、警察、消防の皆さんが救助して下さいました。真備町の人口は約22,000人で9,000世帯ですが、そのうちの6,000世帯が洪水による全壊もしくは大規模半壊になりました。各避難所に避難されている人数と地域に住んでいる人達との人数が合わないために、消防団を中心として全世帯を搜索するローラー作戦を実施しましたが、その際、消防団員の方が地域を一番知っており、道案内員として頑張ってくれました。また、水防法第28条第1項の水防のため緊急の必要がある場合には工作物その他の障害物を処分することができる規定を根拠として、水害による人命確認を行うため、76軒の家の鍵を開けさせて頂きました。お亡くなりになられた方の場所を検証してみますと、真備町で水害で直接お亡くなりになった方は51人でしたが、住宅の1階でお亡くなりになっている方が39人、屋外が7人などの結果から、何とか2階まで上がって頂ければ、命は助かったという人もたくさんいたという結果になっていました。そこで要支援者の避難行動計画には、足の悪い人が多い、とにかく何とか2階まで上って頂けませんかというお願いをしていくような個別避難計画を作っています。被災直後の避難所で一番多い所の小学校は約1,500人ほど規模になりました。それから段ボールベッドを入れたり、間仕切りをしてプライバシーにも配慮致しました。また、避難所へは最初から保健師を派遣しました。私達は水害を受けたわけですが、熱中症対策や衛生対策、片付けのためには、一番最初に水を出すことが大切です。管をつなぎ、用途を分けることで復興が速く進んだと思っています。」全域での停電復旧は1週間ぐらいで復旧された旨の話がありました。

次に、東京大学の廣井教授から、これまでの4人の発表者の内容についてお話があり、「まず、丸山知事のお話で、能登半島地震の被災をきっかけに対策を講じておられることに感銘を受けました。島根県では、自立・執行力、受援力、そしてハードの強靱化の3つをされていますが、ハードの強靱化というのはやはり一番根本的にやるべきことであります。先の能登半島地震で何が一番悪い影響を与えたのか、それは道路が破断して、停電したこと、それが先々に至るまで非常に負の大きい影響を与えているのです。災害の時に本当に問題になることをキチンと強靱化しておくような戦略がとても重要です。消防も広域化し

ていますので、やはり災害対応もこれからは県の役割が非常に大きくなる時代を迎えるのではないかと考えます。」との話がありました。

次に、婦人消防協力隊の千葉隊長の発表について、「藤沢町の婦人消防協力隊の素晴らしいところは他団体との連携なんです。人口減少の中で防災だけで展開していくことはうまくいきません。結局、防災って組み合わせなんです。様々な目的とか、様々な組織と組み合わせという掛け算の取組みがとても重要なわけですが、全国の消防関係者には、そのような藤沢町の婦人消防協力隊の取組みを是非真似して頂きたいと考えます。」との話がありました。

次に、豊橋手話ネットワークの平松副代表の発表について、「私達の立場としては、聴覚障害者の方々の災害対応において、人的被害をできる限り減らそうということはとても重要です。AIなどを活用することも大切ですが技術だけではダメで、やはり寄り添う人がいないとダメだと思っています。そういう意味では、大学という特性を活かして活動されていることは素晴らしいと思います。そして、コミュニティを増やすという点もとても重要です。防災を使って、防災をきっかけにしてコミュニティとか地域の良いところを再生産する取組み、私は防災からまちづくりと呼んでいます、大変に素晴らしい取組みであると考えます。」との話がありました。

次に、倉敷市の伊東市長の発表について、「私が行った西日本豪雨時の真備地区における避難行動調査では、避難するに際して、色んな情報を入手して、良く調べて、地域の異変を知って避難することが大切であり、地域を知ること、みんなで主体的にキチンと考えることが重要であると考えます。」との話がありました。

進行役の秋本会長から、「ここまで聞いていて地域防災というのはいかに総合的な対応策が必要か。地域総合防災という切り口はやっぱり当たっていたのではないかな。」という発言があり、次に消防庁の天利課長にご意見ご感想を伺いました。

消防庁防災課の天利課長からは、「能登半島地震等の教訓を踏まえ災害対策基本法の改正も行い、令和7年7月1日(火)には防災基本計画の修正を行っています。この中で国による地方公共団体に対する支援体制の強化などの災害対応の強化や、避難生活における生活環境確保などの被災者支援の充実を掲げていますが、やはり地域防災力の充実強化も非常に重要であり、地域における消防団、自主防災組織等、様々な多様な主体の連携による消防防災力の充実強化といったものも位置づけさせて頂いています。地域の多様な主体が連携して地域の持てる力を総合的に発揮して災害に備えていくという取組みであり、これが重要になってきています。消防庁としては、地域の防災力を充実していくという取組みを進めて、地域の多様な主体が連携した優良な取組みを全国に周知していくということで、災害時に地域総合防災力をしっかりと発揮できるように取り組んでまいりたいと考えています。」との話がありました。

次に、倉敷市の伊東市長から「平成30年7月の西日本豪雨をきっかけとして国が国土強靱化という取組みを始めて河川の浚渫や樹木などの除去を強力に推進してくれたことは本当に大切で有難かったです。災害後、どのようなことが再建に向けて起こったかと言いますと、約2年分の災害廃棄物が発生しました。とにかく早く復旧するためには分別が大切で、最初から分別をしながら廃棄物の集積をしなければならなため、倉敷市では十何種類の分別看板を常に作って持っていました。今では他の自治体へ応援に伺う時は、それを持って応援に行っています。また、多くの方々が被災されて自宅に住めない訳ですが、最初に全国からトレーラーハウスを持ってきて頂いて、そこを避難所として採用しました。最終的に自力再建が難しい方のために災害公営住宅も約90戸造りましたが、いざという時に、みんな周りの方々がそこに逃げられるように造りました。また、子供達が通う学校については、学校を疎開するという形をとりました。子供達がバラバラになったら復興は難しいのではないかと考えて、クラス単位、学校単位ごとに空いている校舎を借りて、バス通学をして、学校が復興したら戻ってくる、この集団で学校を疎開するという形をとったことは、まちの復興にとってすごく大きな力になりました。被災された方々が避難先で孤立してはいけませんので、避難所には見守り連絡員を約50人ほどお願いしたり、真備地域の状況や支援状況などの必要な情報を復興だよりによってお知らせしました。国が抜本的な河川事業をやって頂いたお陰で、今後、真備地域は絶対に安心だと思っています。災害後、市では2,000㎡以上の開発行為を行う民間事業者に対して、雨水排水計画の協議を義務化しており、2,000㎡当たり50tの貯水タンクを設けるなど、市からも補助金を出して整備しており、まちの中に水が溢れかえらないようにしています。このように真備地域の災害の教訓をきっかけとして防災力の強化を図っています。」との話がありました。

進行役の秋本会長から、日常生活の回復において女性防火クラブにおいても様々なご苦労があるのではないかと藤沢町の婦人消防協力隊の千葉隊長に伺ったところ、千葉隊長から、「東日本大震災を経験して本当に様々な方々との出会いがありました。震災の支援をきっかけとして地域と一緒に寄り添うようになりました。幾ら技術が発達しても、私達は自然災害には到底勝てないと思うのです。やはり一人ひとり自分の身は自分で守る。そして、自分よりも困っている人がいれば助けてあげるといふ、そのお互い様という心、そういう昔からの気持ちを忘れずにみんなで助け合うということが一番大切だと思います。そして、リーダーは、まず災害時には現場を見て判断し実践する。こういうことが非常に大切になってくると思います。私は災害にその都度教えて頂きました。」との話がありました。

次に、進行役の秋本会長から、豊橋手話ネットワークの平松副代表に対して、日々、聴覚障害者の方々への取組みをされている中で、大変に苦勞されていることやご意見などについて伺ったところ、平松副代表から「視聴覚障害者の方々の声というものは聞こえないということ、要は言葉の見える化をどんどんしていけないといけないと思っています。避難所もそうですが音声情報だけでは地域に聞こえない人がいます。情報を届ける際に、情報を発信しましたのではなくて、発信した情報が届いたことをきちっと確認できるためのツールについても私達は提案もしています。若者にもっと関心を持ってもらって、実際に現場で活動してもらうことが大切です、コミュニティに障害を持った人がどんどん入ってきて、周りのみんなもそういうことが当たり前ようになっていけば、人にやさしい街になっていきます。この輪を広げていきたいと考えています。」との話がありました。

東京大学の廣井教授からは、「助け合いで重要なのは人間関係と仲間集め、この2つだと思います。人口減少が進む我が国で助ける人はすごく減って、助けられる人がすごく増えてきますので、助ける人の仲間を沢山集めるような工夫をしないと、共助が成り立たなくなってくるのではないかと懸念しています。仲間集めのポイントは何かといいますと、みなさんで地域の良いところを知ることがとても重要だと思っています。地域の理想像といいますか、良い未来をキチンと見据えて共有する。そして仲間集めをすることがとても重要だと思っています。防災を手段にして理想的な地域を創ろうよというふうに地域ごとに呼びかけをして、仲間を集めるということをしていかなければいけないと考えます。」との話がありました。

倉敷市の伊東市長から小学校の防災教育について、「まずは子供達が学校で習って、自分達で地域を歩いて、それを親と一緒に地域を歩いて、また学校で発表するということで子供が関与してくれることで親とか地域の人もみんなが関心を持つということがすごく大事だと思います。私達は水害の経験をお役に立てそうな所には積極的に災害廃棄物の分別版とかの情報の提供をさせて頂いたり、職員が支援物資を被災地に運んだり、お手伝いをさせて頂いたりしていますが、自分達自身が助けられたり、また、助けることによって色んな知恵が広がり、輪が広がっていくことがすごく大事だと考えています。」との話がありました。

最後に進行役の秋本会長から、「地域総合防災力の発揮」シンポジウムの終了に当たり、「地域の防災体制の充実ということは色々な災害の場面で、もっと何とかやっていかなければいけないというものが色々と

あるものですから、本日の大会を開催させていただきました。これから先も更に色々な方々のご協力を頂きながら、地域の総合防災力の発揮、充実、それにつながるようにやっていきたいと思っています。ご協力を頂きました皆様方に対して、改めてお礼を申し上げますとともに、これから先も皆様方、それぞれの立場で地域の防災力の充実を進め、そして、そのことが広く国民の皆さん方の安全向上につながるよう、ご尽力、ご配慮頂きますようお願いを申し上げます。」という挨拶があり、大会の幕を閉じました。



左から：秋本敏文会長、平松靖一郎氏、千葉とき子氏
廣井悠氏、伊東香織氏、天利和紀氏

日本消防協会臨時理事会等を開催

(公財)日本消防協会

令和7年9月10日(水)、日本消防会館において「日本消防協会正副会長会議」及び「日本消防協会臨時理事会」を開催しました。

正副会長会議では、引き続いて開催される臨時理事会の議題について説明が行われたほか、秋本敏文会長から、年内に予定している主要イベント等についての説明がありました。

正副会長会議の後に、臨時理事会を開催しました。

秋本敏文会長のあいさつ後議事に入り、議案として定時評議員会の招集について審議され、原案通り決議されました。また諸般の報告として、今後の全国大会等の開催計画などの説明があり、臨時理事会は終了しました。



日本消防協会正副会長会議の様子

【議決事項】

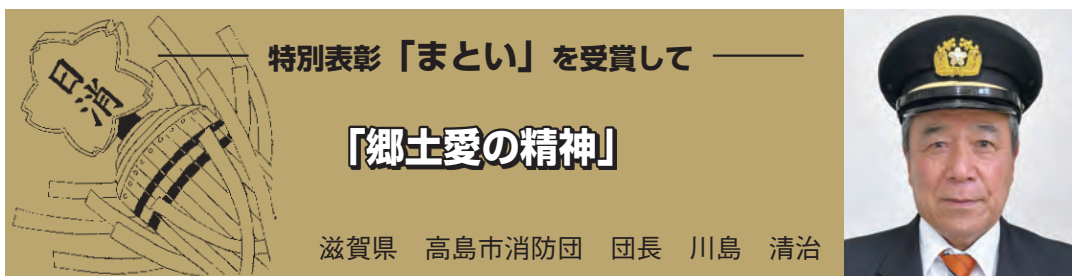
第1号議案 定時評議員会の招集について

【諸般の報告事項】

- (1) 今後の全国大会等の開催予定について
- (2) 第26回全国女性消防操法大会の実施について
- (3) 第27回全国女性消防操法大会の開催場所について
- (4) 国内各地の消防防災活動動画の提供について



日本消防協会臨時理事会の様子



1 はじめに

令和7年3月7日(金)に開催されました「第77回日本消防協会定例表彰式」におきまして、消防団として最高位の榮譽であります日本消防協会特別表彰『まとい』を拝受いたしました。

高島市消防団にとって、永年の念願でありましたこの榮譽ある最高の賞を全国数ある消防団の中から受賞できましたことは、我々消防団はもとより、高島市消防関係者にとりましても、このうえない喜びであり誇りであります。

これもひとえに、日本消防協会をはじめ、滋賀県消防協会、市民の皆様方及び関係各位のご支援とご協力の賜物であり深く感謝を申し上げます。また、長い歴史と伝統を築き上げ受け継ぎ、多年にわたり抜群の成績を堅持された諸先輩方の功績、そして、今日まで昼夜を問わず消防団の使命を果たしてきた団員各位とその活動を陰で支えてこられたご家族のご理解とご協力に重ねて感謝申し上げます。



まとい受賞の様子

2 高島市の紹介

高島市は、琵琶湖の北西部に位置し、平成17年1月1日(土)、高島郡を構成していたマキノ町、今津町、朽木村、安曇川町、高島町、新旭町の5町1村が合併し発足しました。面積は滋賀県内で最大となる約693km²(うち琵琶湖の面積約182km²)、令和7年6月30日(月)現在の人口は44,714人です。気候は、日本海側に近いことから冬季の寒さは厳しく積雪量の多い日本海側気候となっています。また、秋季には「高島しぐれ」と呼ばれる降雨がしばしばあり琵琶湖の水約3分の1を生み出す水源地でもあります。

古来より当地域は、京都・奈良の都と北陸を結ぶ交通の要衝として栄え、中でも陸上交通は比叡・比良山麓を湖畔に沿って縦貫する西近江路や塩漬けされた鯖を運搬する街道であったことから鯖街道と呼ばれる若狭街道が主となり、これらの街道と天津方面への湖上交通の拠点である港町や宿場町として発展してきました。

近年では、情報サイトの紅葉ランキングで全国1位に輝いた「メタセコイア並木」や日本遺産に選定された湖上鳥居がある「白鬚神社」、発酵食品の「鮒寿司」等が人気を集めています。

3 高島市消防団の紹介

高島市消防団は、1本部12分団29部、令和7年4月1日(火)現在の団員数466名(うち女性消防団員15名)で組織しており、消防ボ



メタセコイア並木

ンブ自動車24台、日本消防協会から交付を受けた多機能型消防車を含め小型動力ポンプ付積載車9台、その他小型動力ポンプ15台を保有しています。

受賞歴は、日本消防協会表彰旗受賞4度、消防庁長官表彰旗受賞3度拝受いたしました。また、滋賀県消防操法大会では、平成7年度にポンプ車操法の部で優勝を果たしました。(何れも構成市町村の過去受賞歴等含む)

災害時初動対応として、火災や風水害等の発生に備え、以前から整備していた団員へ一斉メールを送信する体制に加え、令和5年度にデジタルトランスフォーメーションを推進し消防団管理アプリケーションを導入しました。これにより、災害対応能力が向上し消防団活動の透明性が担保できています。

火災対応では、平成28年に発生した危険物施設を多数保有する工場での火災で、車両25台、団員約220人が約7時間もの間、夜を徹して消火活動に従事し延焼を阻止しました。

水害対応では、平成25年台風18号の襲来による一級河川の堤防決壊時、団員約270人が出動し、警戒や避難誘導などを実施しました。この活動により、翌年、内閣総理大臣表彰を受賞しました。

また、災害に備え年間を通じて、火災防御訓練や水防訓練、救助訓練、原子力防災訓練など各種訓練を実施しています。その他、火災が発生しやすい時期には、巡回パトロール、大型店舗やこども園、イベント等で防火広報を実施しています。加えて、救命率向上のた



白鬚神社の湖上鳥居

め上級救命講習を受講しています。社会貢献事業として多くの団員が献血に協力し、平成29年に滋賀県赤十字血液センター所長から感謝状を、令和3年に日本赤十字奉仕団滋賀県支部長から感謝状をいただきました。



消防操法訓練の様子

4 おわりに

近年、全国各地で地震災害や風水害、大規模な林野火災が発生する等、気候変動による自然災害が激甚化、頻発化しており、地域防災における消防団の重要性が益々増えています。高島市消防団は、この度の特別表彰『まとい』受賞を誇りに、「自分たちのまちは、自分たちで守る。」という信念のもと、郷土愛の精神に基づき、市民の生命、身体及び財産を守るため、より一層精進してまいります。

結びに、今回の受賞にあたり特段のご高配を賜りました日本消防協会をはじめ、滋賀県消防協会並びに消防防災関係機関各位の皆様に変更して深く感謝を申し上げますとともに、今後益々のご発展とご活躍を祈念いたしまして、受賞のご挨拶とさせていただきます。



「胎内市消防団の 取り組み」



胎内市消防団 団長 宮嶋 等

1 胎内市の紹介

胎内市は、新潟県の北東部に位置し県都・新潟市から北へ約40kmに位置し、人口約26,480人、面積は265km²ほどの市です。

飯豊連峰を源とする母なる川・胎内川を中心に形成された市域は東西に細長く、上流部は四季折々の溪谷美、中流部の扇状地は肥沃な優良農地、海岸線には砂丘が広がっており、春に開催されるチューリップフェスティバルでは、2haの畑に、700種類・80万本ものチューリップが咲き誇り、その隣には2haの菜の花畑の迷路が広がります。また夜にはイルミネーションでライトアップされたお花畑を楽しめます。春の空のもと、一面に広がる色鮮やかな花の絨毯は圧巻です。また、夏には「胎内星まつり」が開催され、全国各地から大勢の方が胎内に訪れ胎内の夜空を楽しんでいます。

2 胎内市消防団の概要

胎内市消防団は、平成17年の町村合併とともに発足し、今年で発足20年を迎えます。この間、人口減少や少子高齢化を背景に消防団員の確保が困難になったことを受け、条例定数などの見直しを行いました。現在、4方面隊13分団29部で編成され、現在552名(条例定数600名)の団員で活動しています。このうち広報活動等を中心とした女性消防隊員が9名在籍しています。

主な消防団装備については、消防ポンプ車1台、小型ポンプ付き積載車51台を配備して、地域の安心安全を守るために活動をしています。



女性消防隊による防火啓発活動



消防操法大会

3 胎内市消防団の活動

胎内市消防団の主な活動は、年間の事業計画に基づき各種訓練等を実施しております。1月の消防出初式においては、1年の無災害を誓い、文化財防火デーでは、国の重要文化財である「乙宝寺三重塔」で、常備消防や地域の自衛消防隊と連携して放水を実施しております。

春と秋の火災予防運動期間中には、消防車両による防火広報や防火チラシの配布などを行い、かけがえのない生命と財産を守る活動に取り組んでおります。

消防団活動の基本となる訓練においては、年度当初に行われる幹部及び新入団員を対象とした各種訓練のほか、ポンプ技術の習得を目標とした消防操法大会、水防訓練、各方面隊での地域訓練などのほか、ポンプメーカーを招きポンプ講習会など、技術向上及び消防団員としての厳正な規律の修得に努めております。

また、女性消防隊の活動としては、市内各地で開催される防災訓練では初期消火に重要な消火器の取り扱い説明や、応急手当

普及員として心肺蘇生法やAEDの取り扱い方法などの講習を行っております。

秋の火災予防運動期間中には、市内の保育園などに出向き、火の怖さを伝えるため、寸劇を披露するなどして、積極的に防火思想の啓発に努めています。

そして、消防団の日頃の活動を市民の皆さんに知ってもらうため、消防団広報誌を作成しています。

4 おわりに

人口減少や少子高齢化、就労形態の変化などにより新たな団員の確保が困難となっております。また、近年消防団を取り巻く社会環境も変化しつつある中で、全国各地で災害が多発、激甚化してきており、地域から消防団への期待は年々高まっています。市民が、安全で安心して暮らせる街となるため、これからも様々な訓練を通して知識・技術を習得し、「自分たちのまちは、自分たちで守る」の精神をしっかりと持ち、全団員が一丸となって活動していきたいと考えております。



放水訓練



水防訓練



「自分たちの地域を守るために」



邑南町消防団 団長 倉見 譲

1 邑南町の紹介

邑南町は、島根県中南部に位置し、西側は浜田市、北側は江津市・川本町・美郷町、南側は広島県安芸高田市・北広島町、東側は広島県三次市に囲まれた、面積419.29km²の広大な地域です。

地域の東部と広島県との境には、中国地方最大の河川である江の川が北流しています。山間部の中高地を、出羽川、濁川とその支流など、江の川に流入する多くの河川が浸食したことにより、地域内に盆地と山地の組み合わせによる優れた景観をもたらしています。これらの自然条件が、時には洪水や土砂災害等の被害を及ぼしてきたことから、これまで治水・治山に多くの努力がなされてきました。

邑南町は北九州型に近い日本海性山間地特有の気候となっており、夏から秋にかけては台風の影響を受け、冬季は降雪のために降水量が増えるという特徴があります。

2 邑南町消防団の紹介

平成16年10月1日(金)の町村合併により3つの消防団(旧羽須美村、旧瑞穂町、

旧石見町)の統合により、「邑南町消防団」として、新たに活動をスタートしました。令和7年4月1日(火)時点で12分団19部、女性消防団(本部付)、現在442名の団員が在籍しています。

主な装備として、消防ポンプ車7台、可搬ポンプ積載車23台(うち軽四輪3台)、指揮車1台を配備して、地域の安心安全を守る為に活動をしています。車両については、中山間地域という特性を踏まえ、機動性も考慮し車両の小型化にも取り組んでいます。

3 邑南町消防団の活動

邑南町消防団の活動は、出初式から始まり、防火水槽除雪や、新入団員と入団5年以内の団員による機材運用と礼式訓練、実践に即した訓練など、年4回(春夏秋冬)の訓練を実施しており、不定期訓練として、水防訓練も実施しています。それ以外に、春季・秋季全国火災予防運動では、町内車両でのパレードの実施や各戸へ火災予防啓発チラシを配布するなどの活動も実施しており、運動の一環として、地域によっては地元保育園児とともに





に防火パレードを実施する取り組みもしています。

また、今年度は、地域の公民館イベントにも参加し、消防団員募集にも力を入れており、多くの方に消防団の活動を知っていただく機会にする予定です。

今年度、邑智郡消防協会主催の合同訓練の担当が邑南町となりました。そこでは、近年の住宅構造の変化に伴い、従来の消火方法では対応が難しい場面も出てきているため、団員が消火方法を学び直す必要があります。広域消防本部の講師による消火法や機材取扱いの運用方法を学び、その知識を基に実践訓練を予定しています。

4 現状における課題

少子高齢化が進み、地域人口の減少に伴い、当消防団の団員数も年々減少しています。令和9年度に団員数520名を想定していましたが、現在の団員数は442名と減少が早まっています。この現状から、消防車両数の変更と班・部編成の見直し

を予定よりも早めています。現時点の状況としては、12分団のうち、班編成や車両台数の見直しが完了した分団が1分団、協議が進行中の分団が2分団となっています。

また、昼間は仕事の都合等により、消防団員がすぐに対応できない状況があります。今後は、その補完対策として、元消防団員の知識や経験を生かし、支援団員としての活動参加が可能かどうかを検討しています。

5 おわりに

邑南町消防団は、地域防災の本質である「自分たちの地域は自分たちで守る」を目的とし、日々活動しています。昨今、災害も多様化し、従来の訓練だけでは対応できない災害も増えています。消防団としても、それらを鑑みて訓練内容を考えていかなければならず、変化を求められていると感じます。変化する災害に対応できる消防団を目指し、今後も活動を続けてまいります。



「地域のヒーローたちが 繋ぐ未来」



江田島市消防団 団長 川端 睦夫

1 江田島市の紹介

江田島市は、平成16年11月に江田島町、能美町、沖美町、大柿町が合併して新たに市として誕生しました。場所は広島県の南側、広島湾の中心に位置し、アウトドアスポーツや観光、瀬戸内の豊かな情景、全国有数の生産量を誇る広島牡蠣やオリーブをはじめとした、水産物、農産物のほか、花の栽培にも恵まれた、人口約21,000人、面積100.65km²の自然豊かな市です。

江田島市には歴史や文化を伝える学びの館など、歴史を肌で感じ学べる施設が点在しており、数ある貴重な文化財や歴史を感じさせる史跡の中でも、海上自衛隊第1術科学校や通称「赤レンガ」と呼ばれる幹部候補生学校は、全国的に知られています。

2 江田島市消防団の概要

江田島市消防団は、平成16年の町合併による江田島市の発足に伴い「江田島町消防団」、「能美町消防団」、「沖美町消防団」、「大柿町消防団」が統合され、4方面隊22分団で結成されました。現在は、分団の統廃合を経て4方面隊15分団で編成され、450名の団員が地域の安全・安心のために活動しています。

消防車両は、指揮車1台、ポンプ車9台、積載車26台を配備し、消火活動に必要な資器材に加え、平成30年に発生した西日本豪雨災害の教訓を踏まえて、救命ボート7艇、排水ポンプ4台を配備しています。更に、救助資機材としてエンジンカッター、チェーンソーに加え、電動コンビツールを今年度配備予定を含めて20台配備し、今後発生する恐れのある大規模災害に備えています。



令和7年江田島市消防出初式



消防署との合同訓練



令和6年1月に発生した林野火災の様子

3 江田島市消防団の活動

江田島市消防団では、各種災害対応のほか、訓練や研修、市のイベント時における警戒救護活動、応急手当講習、消防出初式など、多岐にわたる活動を行っています。

訓練においては、令和4年度から訓練の質の向上、消防署との連携強化、消防署員との顔の見える関係の構築、他分団との交流を目的に、消防署と消防団が毎月合同で訓練を実施しています。令和6年度には、広島県消防協会が主催する広島県内規律訓練大会に江田島市消防団から50名が代表として出場し、日々の訓練を通じて他都市消防団との交流を深め、多大な支援を受けながら、大会当日にはその成果を披露することができました。

また、女性分団は現在11名で活動しており、応急手当指導、火災予防広報、防火指導、高齢者宅への住宅防火訪問のほか、災害時の後方支援活動なども行っています。平成30年の西日本豪雨災害では呉市へ後方支援部隊として出動し、避難所運営の支援にあたりました。

災害においては、令和6年1月に大柿町の陀峯山、令和7年1月には江田島町の水晶山で大規模な林野火災が発生し、いずれの火災も発災から数日間燃え続け、延べ約

600名の消防団員が消火活動にあたりました。幸い人的被害はなく、無事に鎮火に至ったことは、日頃の消防団員の訓練、そして消防署との合同訓練による連携強化の成果によるものと考えています。

今後も様々な訓練を通じて、消防団は地域住民の安全・安心を守るための連携体制を強化し、有事の際に迅速かつ的確に対応できる災害対応能力の向上に努めていきます。

4 おわりに

近年、全国各地で災害が激甚化・頻発化している中、地域防災の中核を担う消防団活動に対して、市民から寄せられる期待は、一層高まってきています。

一方で、人口減少に伴う団員数の減少や団員の高齢化、サラリーマン化など、本市においても他都市と同様の課題を抱えており、今後も消防団を取り巻く状況は、厳しさを増していくことが予測されます。

こうした喫緊の課題に対し、江田島市消防団は、団員の入団促進や処遇改善に取り組むとともに、日々の活動の中で「人と人との輪」を大切にし、地域を守る「ヒーロー」であり続けたいと考えています。



シンフォニー（石川県） 「小さな分団の地道な取り組み」

白山市北消防団女性分団 分団長 森 みどり

1 白山市の紹介

白山市は、松任市、美川町、鶴来町、河内村、吉野谷村、鳥越村、尾口村、白峰村の1市2町5村が合併し、平成17年2月1日(火)に誕生しました。県内の自治体で最大の面積を占めており、人口は金沢市に次いで2番目に多くなっています。

県都金沢市の南西部に位置しており、白山国立公園や、県内最大の流域を誇る一級河川手取川、白砂青松の日本海など、山・川・海の豊かな自然に恵まれた地域です。海岸部から山間部まで、およそ2,700mの標高差があり、日本海から白山にかけての狭い範囲で水循環(水の旅)が生み出されていることから、市全域が「山－川－海そして雪 いのちを育む水の旅」をテーマとする白山手取川ジオパークとして認定されています。

2 白山市北消防団について

白山市合併に伴い白山市消防団は、山側の南消防団(鶴来町、河内村、吉野谷村、鳥越村、尾口村、白峰村の1町5村6消防団10地区の分団と女性分団)と海側の北消防団(松任市、美川町の2消防団11地区の分団と女性分団)で組織されました。また、南・北の各分団にそれぞれの本団があり各消防団を統括するとともに、両分団を統括するための組織として「白山市消防団連合会」を設置しています。

行方不明者の捜索など、市民の生命財産を守るため、昼夜問わず活動していま

す。団員数は、条例上、南消防団312人、北消防団305人の合計617人となっている一方、令和7年4月1日(火)現在の実員数は、南消防団213人、北消防団277人、あわせて490人と定員割れしているのが現状です。

私が所属する白山市北消防団女性分団は、阪神淡路大震災を機に「女性でも何かできることがあるのではないか」との思いを持つ有志で、平成8年4月に発足しました。発足当時は、約15人での活動でしたが、できることから地道に活動してきたことなどにより、現在では、22歳から65歳までの幅広い年齢構成の組織となり、当時より、少し大きい規模の団体となりました。最近では、22歳の大学生等も、団員として積極的に活動しており、そのことが組織自体の活性化にもつながっています。



消防団入団促進広報活動

3 女性分団の活動内容

本市の女性分団は南北それぞれ1分団ずつ設置されておりますが、現状では、実際の火災現場や災害現場で活動するこ

とはありません。私が入団した平成21年当時は、出初式や年末特別警戒、防火パレードなどへの参加が主な活動でした。そのため内心「ほんとにこれでいいの？もっと何かやれることがあるはずだ」という思いもあり、平成25年頃から保育園へ「防火教室」訪問を始めるなど活動の幅を広げ、具体的には紙芝居の読み聞かせや防火のお話など、ジェスチャーを交えながら予防活動などに取り組んできました。その後、新型コロナの発生で訪問機会が減少してしまい、団員の働き方や立場も変わってしまったことなどの影響や、団員によっては家庭と活動との両立といった課題も大きくなるなど、訪問活動が再開しにくい状態となっていました。現在、訪問内容等をバージョンアップし、再開に向け準備しているところです。現在の主な活動は、応急手当普及員として防災訓練等での救命講習や、普通救命講習会における指導補助等年間を通して行っており、秋の防災時期は毎週各地で要請があるなど、やりがいを感じながら活動しています。



防災訓練で救命講習指導

4 今後の活動

現代社会においてはその社会的な役割については「男性だから」「女性だから」という垣根は消えつつあるように思います。これまでの消防団は男性中心の組織でしたが、時代に即した新しい消防団として、

その活動に女性の能力を活用することが不可欠になっているように感じています。

このような中で、若年層の消防団員の確保が年々困難になっており、同時に消防団員のサラリーマン化も確実に進んでいます。また、災害に直接に対処するだけでなく、高齢者や地域社会に対する火災予防活動を重視しなければならないようになっていきます。

このような状況下で広報活動、予防指導、または災害弱者対策等の役割として、「女性だからこそ」の視点や能力を発揮していきたいと考えています。また、女性消防団員として、地域社会の中で防災・防火意識を醸成していくこと、さらにそういった活動を活発化していくことこそが、女性消防団員の使命だと感じています。



訓練大会での分列行進

5 おわりに

白山市は、県内最大の市域と白山、手取川及び日本海の豊かな自然を有する反面、山間地域が全国有数の豪雪地帯であるなど、雪害、水害や土砂災害などの様々な災害が想定されるため、防災体制を強化し、備えていく必要があります。消防団として、地域防災の要となる自主防災組織及び防災士の育成と充実、災害ボランティア育成のための環境づくりなど、地域住民と一体となって行政と連携して防災意識の高揚に努め、総合的な消防力の強化に邁進してまいります。



消防団活動の「見える化！」

奈良県 桜井市消防団

1 桜井市と桜井市消防団の紹介

桜井市はヤマト王権発祥の地とされ、かつて邪馬台国があったとされる纏向遺跡や、大神神社、長谷寺など数多くの著名な文化財があり、日本の古代史が色濃く息づく歴史と自然が調和したまちです。

桜井市消防団は1団1団本部・11分団・31部で構成されており、令和7年4月1日(火)現在536名(機能別団員含む、定員577人)が在籍しています。

全国的な傾向と同様に本市消防団においても団員数の減少、高齢化が進んでおり、団員数は過去10年で約100名も減少している状況です。

消防団員確保への取り組みは喫緊の課題となっておりますが、従来の地元や個人のつながりなどに頼った勧誘方法には限界があると感じています。

そのため本市消防団では、市民のみなさんに幅広く消防団活動のやりがい、素晴らしさを知ってもらい、やる気のある人材に集まってもらうために消防団活動の「見える化」に取り組んでおり、具体的に以下のような取り組みを進めています。

2 消防団活動の「見える化」の取り組み

① 桜井市消防団公式Instagram(インスタグラム)

「消防団の活動って具体的にどんなことをしているの?」という疑問に答えるため、令和4年8月に桜井市消防団公式Instagram(イ

ンスタグラム)を開設しました。広報活動を担当している女性部団員が消防団の訓練やイベントに参加して活動の様子取材、写真を撮影し感想を添えて投稿しています。



桜井市消防団
公式Instagram(インスタグラム)

消防団員が真剣に活動している様子と、女性目線での新鮮でわかりやすい感想とが相まって、Instagram(インスタグラム)を見た市民の方からは、「活動の様子がよくわかる」、「消防団かっこいい」など好意的な感想をいただいています。また、消防団員からも自分たちの活動が発信されることで、「モチベーションが上がった」、「より真剣に訓練に取り組むようになった」などの感想があがっています。

② 消防団PR動画等の作成

令和6年度総務省消防庁の「消防団の力向上モデル事業」を活用して、消防団PR動画3本、消防団訓練礼式動画2本を作成し、桜井市公式YouTube(ユーチューブ)チャンネルで発信しています。消防団PR動画はそれぞれ、映画風実写動画、オリジナルキャラ「桜みわわちゃん」が桜井市消防団を紹介する動画、イラスト化された実在の団員が消防団活動をPRする動画といった内容になっており、



消防団PR動画

若い世代に見てもらいやすく、また、消防団のことを知らない方でも興味をもってもらえるように工夫して作成しています。

消防団訓練礼式動画は基本的には団員の訓練用ですが、メインで出演している女性部団員がユーモアを交えながら訓練礼式をわかりやすく説明しており、誰が見ても楽しく見やすい内容となっています。

どちらの動画も見ただけからは好意的な感想をいただけており、消防団のイメージアップに繋がっていると感じています。

③こども消防士体験

令和6年度総務省消防庁の「消防団の力向上モデル事業」を活用して「こども用防火衣」を購入し、消防団出初式をはじめとするイベ

ントや、各分団の訓練などで「こども消防士体験」を実施しています。市民のみなさんに消防団活動に直接触れるきっかけとなることを目的として実施しています。今年の消防団出初式で実施した時は数十名の参加者があり、参加者からは楽しかったと喜びの声をいただいています。家族が参加した消防団員からも、「お父さんのカッコいい姿を見せることができてよかった」との声がありました。

3 今後の展望について

Instagram(インスタグラム)やPR動画を見て「消防団員になりたい!」と応募されてきた方は、残念ながらまだいらいしません。しかし、日々の勧誘活動の中では、入団を後押しするためのツールとして確実に機能しておりますし、また、市民の中での消防団の「見える化」、イメージアップはしっかりと進んでいると感じています。

消防団活動の実情を知ると、ほとんどの方は「がんばっているな、すごいな」という感想を持っていただけるようです。実際にがんばってくださっている消防団員のためにも引き続き「見える化」を進め、将来的な団員確保につなげていきたいと考えています。



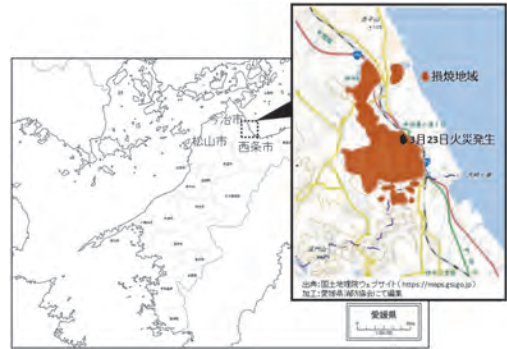
こども消防士体験

令和7年今治市林野火災に伴う 今治市消防団・西条市消防団・松山市消防団の活動について

(公財)愛媛県消防協会・今治市消防団・西条市消防団・松山市消防団

■ はじめに

令和7年3月23日(日)の午後、今治市長沢の山中で発生した山林火災は、折からの強風と乾燥により延焼拡大し、愛媛県内では平成以降最大の大規模な林野火災となり、3月31日(月)に鎮圧、4月14日(月)に鎮火が確認されました。焼損面積は、今治市と西条市合わせて481.6ヘクタール、人的被害は4人、建物被害は今治市で26棟、西条市は1棟となりました。消防団の出動は、今治市で延べ1,767人、西条市で987名、県内消防による広域応援隊、緊急消防援助隊、愛媛県などの防災ヘリや自衛隊ヘリが投入されました。また、令和2年4月1日(水)に施行された愛媛県消防団広域相互応援協定に基づき、今治市に隣接する松山市消防団が応援に駆け付け、延べ54人が消火活動等を行いました。多数の消防防災機関のご協力、また県内外からのご支援に対し、この場をお借りしまして心より感謝申し上げます。



焼損地域図

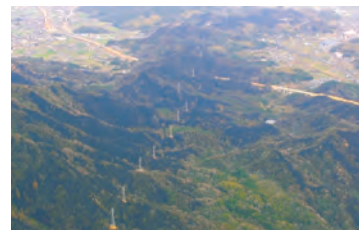
以下、令和7年今治市林野火災における今治市消防団、西条市消防団、松山市消防団の活動内容をご紹介します。



3月23日延焼状況



3月24日延焼状況



3月28日焼損状況

活動報告及び課題と対策

今治市消防団 団本部 副団長 齊藤 久士



■ 火災の概要

本火災は、極度の乾燥と強風が重なったことにより、短時間で急激に延焼しました。特に問題となったのは「樹冠火(じゅかんか)」の発生です。これは、森林の上層部、すなわち木々の梢が火に包まれる現象で、一般的な地表火と比べて消火が極めて困難です。地上からの散水が届かず、空中からの散水や延焼防止ラインの確保のため同時進行で予防注水も行っていました。

また、強風による「飛び火」が数百メートル離れた地点でも認められ、消火活動中にも関わらず新たな火点が発生するという、極めて困難な状況下での活動になりました。調査後の焼損面積は約448ヘクタールに及び、これは愛媛県内では平成以降最大の林野火災となりました。



自衛隊ヘリによる散水

■ 消防団の対応

初動段階では、出火元の管轄分団のみの対応で、直近消火栓やため池からの取水、山間部へのホース延長等、火勢拡大を食い止める活動を実施しましたが、急傾斜の地形により、車両の進入が困難な地点も多く、人力による山中への機材搬入や、延焼阻止ライン



消火活動



消火活動及び予防放水

の構築といった体力的に極めて過酷な作業が夜通し続きました。強風と乾燥注意報が発表されている状態では、延焼スピードも速く、飛び火による延焼範囲の拡大も相まって、劣勢を極めました。

隣接市町の消防団、愛媛県内消防本部さらには広島・香川県の緊急消防援助隊の出動、愛媛県及び他県の防災航空隊、自衛隊など多くの支援を受けました。今治市消防団としても継続した活動を行い、団員の中には、家庭や仕事に都合をつけながら連日現場に立ち続けた団員も数多く、その献身的な姿勢に改めて敬意を表したいと思います。

■ 地域住民・関係機関との連携

火災発生後、地域住民への避難勧告・指示も一部の地区で発令されました。避難所の開設に際しては自治会や地域ボランティアの協力が大きな力となり、混乱なく避難体制を構築することができました。

また、給水や食糧の提供、炊き出し等においても地元企業やその他多くのの方々から支援を受けることがで



住民からの感謝の言葉



園児からのお礼状

き、いくら感謝をしても足りない程ありがたい気持ちでいっぱいになりました。火災現場近くの家々の玄関先には、手書きの御礼メッセージが飾られており、ありがたさと共に地域全体で守っていく姿に感銘をうけ、改めて消防団員としての誇らしさを感じることができました。

■ 課題と今後の対策

今回の火災において、何点か課題も浮き彫りとなりました。

まずは、「装備・資機材」です。人の進入が困難な急傾斜の地形での活動であったり、時間帯や活動内容により使用する資機材が変わってくるため、各方面隊には事前連絡をして早めの対応をしてもらいました。

次に「情報共有や指揮命令系統」についてです。今回の林野火災で一番苦慮した部分ではありますが、同時に多数の隊が活動し、多発的かつ広範囲の活動であったため、情報の集約・把握が難しい状況でした。また進行性災害であるが故に、活動が後手後手になってしまったことや、市・県・国との調整、横の連携の難しさを痛感しました。

3つ目は「後方支援体制」です。今回のように長期活動になれば、団員の確保、燃料・食糧の調達に苦慮しました。近頃は会社勤めの団員が多く、休みの都合をつけるのが非常に難しかったため、時間的余裕が作れるよう、早めの対応を心掛けたいと思います。

4つ目は「地理」についてです。応援出動した他の方面隊の団員は地理（特に水利）には不慣れなため、地元団員に車両誘導してもらうなど役割分担しながら全体で協力しての活動ができました。



残火活動



残火活動

■ 結びに

最後になりますが、本災害の消火活動に際し、多数のご支援・ご協力をいただきましたすべての皆様に、心より感謝申し上げます。消防団は「地域を守る最後の砦」として、これからも訓練と備えを怠ることなく、地域の安全・安心のために努めてまいります。災害はいつ、どこで起こるか分かりません。今回の経験を真摯に受け止め、次なる災害に備えて、より強固な地域防災体制の構築を目指していく所存です。

西条市消防団活動報告

西条市消防団 団長 戸田 基



令和7年3月23日(日)15時53分に北西部に隣接する今治市で発生した林野火災により延焼、今治市では強風による飛び火で住宅へ延焼する等、愛媛県の山林火災としては、1989年以降最大規模となり、当市に於いても33.6ヘクタールを焼損し建物被害1件、消火活動中に団員が1名負傷する被害を受けました。

■ 災害活動内容

その日は、新たに建設された分団蔵置所の落成式が執り行われた日でした。18時頃に消防本部から「今治市で山林火災が発生し西条市に延焼する危険あり」との連絡が入った際、地元分団と隣接する2分団に出動を指示するとともに、現場近くの福祉施設に指揮本部を立ち上げました。山に近い近隣住宅への延焼防止のため、常備消防と団員でホースを延長し筒先を配備しながら団員負担を考慮するうえで、各分団2～3名を1組とし警戒を継続するよう指示を出しました。

2日目には、西条市へ延焼しているとの情報が入り、団員へ近隣住民の避難誘導と水利確保のため消火栓からポンプ車1台、可搬ポンプ3台を使用して常備消防のポンプ車への遠距離中継を指示、また、寺院参道に可搬ポンプの設置や資機材の搬送を指示しました。

飛び火により延焼が拡大する中、長期間の活動が予測されるため市内全分団に出動準備を要請し、活動が継続できるよう指示しました。また、夜中には山頂から山裾に向け火勢が襲い迫ってくる状況に恐怖を感じました。

自衛隊・防災ヘリの空中消火により火勢は収まり、3月29日(土)午後から消火活動は残火処理に移行しました。団員数を増強しジェットシューターによる活動を開始しました。区域ごとに団員を配置して、林道の中間にジェットシューターの給水ポイントを設置し、表面をスコップ等で掘り、散水を繰り返しながら消火を実施しました。3日間かけ残火処理を実施し、3月31日(月)11時00分鎮圧、4月14日(月)15時00分鎮火となりました。

今回の災害活動では、当市消防団全27分団延べ987名が出動し、被害を最小限に抑えられたことは消防団の誇りと感じるとともにマンパワーによる即時対応力の必要性を改めて感じさせられました。

結びに、活動中に心温まるご支援やご援助を賜りましたことに対し心より御礼申し上げ、活動報告とさせていただきます。



現場写真



消火活動

県内初の消防団応援出動

松山市消防団 団長 大西 浩司



松山市消防団は、火災発生から3日目の3月25日(火)、民家への延焼をきっかけに、「愛媛県消防団広域相互応援協定」に基づき、県内初の応援出動をしました。

■ 16:00 出動要請

一次隊として、被災地に隣接する管轄を持つ方面隊4分団・25名・6台が消防団施設に集結し、被災地の活動拠点まで隊列を組み緊急走行で出動しました。

■ 18:00 活動拠点到着

現地指揮所から出動要請のあった1つ目の現場では、延焼阻止を任務として、1分団・9名・2台が出動しました。現場到着までの間、日も落ちてきた中で土地勘のない山中に入っていくため、所々に車両誘導員を配置し、安全第一で現場を目指しました。活動内容は、ポンプ車で消火栓に水利部署し、そこから火点付近に設置した小型動力ポンプまでホース延長を行い、2線の放水ラインと1線の飛火警戒用の筒先を配備しました。また、ホースの延長経路を確保するため、チェーンソーで伐木し、最終的に18本のホースを延長しました。

次に、出動要請のあった2つ目の現場では、先着していた今治市消防本部のポンプ車への中継送水を任務として、2分団・9名・2台が出動しました。活動内容は、近くを流れる川から小型動力ポンプで取水し、約80m先のポンプ車にそれぞれ1線ずつ、計2線の中継ラインを設定しました。

また、その他の分団は、応援隊を指揮する方面隊長の支援や活動中の分団への資機材・食料搬送などの後方支援活動を行いました。

■ 24:00 活動終了

現場引継ぎを終え、松山市に戻りました。

翌日、空中消火活動が主体でしたが、二次隊として、2つの方面隊から5分団・29名・7台が出動しました。

今回の奏功事例は、平日の日中にもかかわらず、多くの団員が集まり迅速な出動ができたことや長時間に及ぶ活動の中で事故なく松山に戻れたこと、ホース延長やポンプ運用など日々の操法訓練の成果が生かされたことなどが挙げられます。

課題については、被災状況を把握した資機材の準備が必要であったことや関係機関との情報共有を行うこと、後方支援体制を整えることなどです。

今後、これらの課題解決に向けた取組みとして、昨年に引き続き、開催予定の県内全20市町の消防団が参加する「愛媛県消防団広域連携強化訓練」では、現地指揮本部で県内消防本部や自衛隊、警察、ドクターヘリなどの関係機関と役割分担を明確にし、連携した活動を行うとともに、日頃から顔の見える関係づくりに努め、県全域で大規模災害に備えた態勢強化に繋がりたいと考えています。

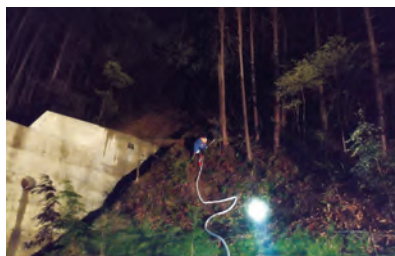
結びに、消防団員は郷土愛護の精神を胸に日々活動していますが、今回の応援出動では、今治市民のために精力的な活動を行った団員達を、私は団長として誇りに思います。



関係機関との活動調整



出動途上の安全管理



延焼防止のための予備注水



中継体制の確立

(松山市消防団→今治市消防本部)

令和7年度全国少年消防クラブ交流大会を開催

(公財)日本消防協会

令和7年9月13日(土)及び14日(日)、今年の全国少年消防クラブ交流大会を広島市において開催しました。

この大会は、ヨーロッパ各国の少年消防クラブが集合して行っている大会を参考にしながら、我が国少年消防クラブの皆さんの実践的な消防活動の充実を進め、全国の皆さんの交流を深め、我が国消防の将来の担い手育成をめざして開催しているものです。試行的な大会の開催も振り返りますと、もう10回目の大会となりました。消防庁主催、現地の広島県、広島市、広島県消防協会の御協力のもと、日本消防協会、日本防火防災協会も参加して開催したのですが、特に今回は、北海道から鹿児島県まで、これまでで最も多数の都道府県から50クラブの御参加をいただき、大いに盛り上がりました。少年消防クラブの一層の発展につながることを楽しみにしています。



交流会の様子

1日目

交流会は広島市「リーガロイヤルホテル広島」で開催され、消防庁国民保護・防災部地域防災室 篠野室長より開会の挨拶後、来賓の挨拶では広島県湯崎知事、広島市松井市長より少年消防クラブに対する期待等について御挨拶をいただきました。

その後、オリエンテーションや各参加クラブから趣向を凝らしたクラブ活動紹介を行いました。

食事中には、広島県及び広島市のPR動画の視聴や、伝統芸能を鑑賞し、クラブ員の交流を図りました。



消防庁 篠野地域防災室長



広島県 湯崎知事



広島市 松井市長



参加クラブ紹介



参加クラブ紹介



伝統芸能鑑賞

2日目

「広島県立総合体育館 武道場」において、クラブ対抗による合同訓練を行いました。

開会式では、消防庁国民保護・防災部地域防災室旗野室長、少年消防クラブ活性化推進会議秋本委員長より開会のことばをいただきました。

続いて、埼玉県三郷市少年消防クラブの代表者が元気に選手宣誓を行いました。



開会式の様子



消防庁 旗野地域防災室長



少年消防クラブ活性化推進会議
秋本委員長



三郷市少年消防クラブの代表者による選手宣誓

合同訓練のクラブ対抗リレーでは、消防で使う筒先をバトン代わりに、5名の走者が1区間40mの往復リレー形式で、障害壁、ホースボウリング、水消火器、トンネル、ホース延長の障害物をクリアし、ゴールラインを通過するまでのタイムを競いました。

クラブ対抗障害物競争は、5名が同時にスタートし、直線50mのコースに設置してある平均台やハードル等の障害をクリアしながらホースを延長し、最後に全員がロープ結索を行い、ゴールラインを通過するまでのタイムを競いました。



クラブ対抗リレー 障害壁



クラブ対抗リレー 水消火器



クラブ対抗障害物競争 スタート



クラブ対抗障害物競争 ロープ結索

合同訓練結果

- 1位 府中町少年少女消防クラブ(広島県府中町)
- 2位 浦安市少年消防団(千葉県浦安市)
- 3位 八王子消防少年団(東京都八王子市)
- 4位 吉川松伏少年消防クラブ(埼玉県吉川市)
- 5位 三郷市少年消防クラブ(埼玉県三郷市)



表彰式



1位 府中町少年少女消防クラブ

参加少年消防クラブ

No.	都道府県	市町村区	クラブ名
1	北海道	札幌市	あつてつちゅうおう 厚別中央しなの少年消防クラブ
2		札幌市	ていねてつほく 手稲鉄北少年消防クラブ
3		小樽市	かつらおか 桂岡少年(少女)消防クラブ
4	青森県	階上町	こみなと 小舟渡少年消防クラブ
5	宮城県	南三陸町	うたつ 歌津中学校少年防災クラブ
6	埼玉県	三郷市	みさとし 三郷市少年消防クラブ
7		吉川市	よしかわまつばし 吉川松伏少年消防クラブ
8	千葉県	浦安市	うらやすし 浦安市少年消防団
9	東京都	文京区	ほんごう 本郷消防少年団
10		大田区	おおちり 大森消防少年団
11		中野区	のがた 野方消防少年団
12		荒川区	あらかわ 荒川消防少年団
13		江戸川区	こいわ 小岩消防少年団
14		葛飾区	ほんでん 本田消防少年団
15		八王子市	はちおうじ 八王子消防少年団
16		清瀬市	きよせ 清瀬消防少年団
17	神奈川県	大和市	やまとし 大和市少年消防団
18	石川県	金沢市	ふしみだい 伏見台子ども消防クラブ
19	愛知県	豊田市	とよたしりつすえの 豊田市立寿恵野小学校 少年消防クラブ
20		尾張旭市	おわりあさひし 尾張旭市少年少女消防団
21	京都府	城陽市	じょうよう 城陽少年消防クラブ
22	大阪府	河南町	かなんちよう 河南町ファイアジュニア
23	兵庫県	神戸市	ほんじょう 本庄中学校ジュニア防災チーム
24		神戸市	うたしきやま 歌敷山中学校防災ジュニアチーム
25		神戸市	なごさ 渚中学ジュニア防災リーダー

No.	都道府県	市町村区	クラブ名
26	兵庫県	太子町	たいし たつの・太子少年消防クラブ
27	鳥取県	米子市	よなごし 米子市消防団少年消防クラブ
28	岡山県	岡山市	じょうとうだい 城東台少年消防クラブ
29	広島県	広島市	よしじまちく 吉島地区少年消防クラブ
30		広島市	もとうじながく 元宇品学区少年消防クラブ
31		広島市	あおさきちく 青崎地区少年消防クラブ
32		広島市	あさみなみくなんぶ 安佐南区南部少年消防クラブ
33		三原市	たかかげ たかかげ少年消防団
34		三原市	みはらし 三原市 Brave Fire Club
35		三原市	みはらしりつめたひがし 三原市立沼田東小学校 少年消防クラブ
36		福山市	あけぼの あけぼの少年少女消防クラブ
37		江田島市	のうみ 能美少年消防クラブ
38		府中町	ふちゅうちよう 府中町少年少女消防クラブ
39	山口県	宇部市	こうなんちく 厚南地区少年消防クラブ
40	徳島県	徳島市	いほく 清北スポーツ少年団消防クラブ
41		美馬市	みまし 美馬市少年少女消防クラブ
42	高知県	南国市	なんごくし 南国市少年消防クラブ
43		香南市	よしかわ 吉川こども防災クラブ Ark Crew
44	福岡県	中土佐町	なかとさ 中土佐ジュニア消防団
45		北九州市	たかみ 高見少年消防クラブ
46	熊本県	北九州市	くすばし くすばし少年消防クラブ
47		八代市	ひかり児童館少年消防クラブ
48	大分県	日出町	ひじまち 日出町少年消防クラブ
49	宮崎県	宮崎市	みやざきみなみ 宮崎南小学校・赤江中学校 合同消防クラブ
50	鹿児島県	出水市	いずみ 出水中央高校地域リーダー同好会

ぼうさいこくたい2025 in 新潟 「地域総合防災力の発揮」

(公財)日本消防協会

令和7年9月6日(土)、7日(日)、新潟市の「朱鷺メッセ」を会場として、内閣府、防災推進協議会及び防災推進国民会議の主催による「防災推進国民大会2025(通称：ぼうさいこくたい2025)語り合い 支えあい～新潟からオールジャパンで進める防災・減災～」が開催されました。

第10回目となる本大会は、昨年と同様に現地開催とオンライン配信のハイブリッド形式で、国、地方公共団体、研究機関、民間企業、NPO法人など防災に取り組む約470団体が出展し、過去最大規模での開催となりました。

オープニングセレモニーは、坂井学内閣府防災担当大臣のご挨拶で始まり、その後、2日間にわたり、セッション、ワークショップ、プレゼンテーション、屋外展示が実施されました。

大会のフィナーレを飾るクロージングセレモニーでは、防災推進国民会議副議長である秋本敏文日本消防協会会長などが挨拶を行った後、次回の「ぼうさいこくたい」が、令和8年10月17日(土)、18日(日)、鳥取県倉吉市において開催されることが発表されました。

日本消防協会は、同大会に第1回開催から参加しており、今大会も9月7日(日)に、朱鷺メッセ国際会議室において、「地域総合防災力の発揮」と題したシンポジウムを開催し、同時にオンライン配信を行いました。

このシンポジウムは、地元新潟県内において防災に携わる2団体の方々より、それぞれの具体的な活動事例を発表していただいた後、政府や新潟県庁の防災部局の幹部、更には、地域における共創や合意形成の有識者の方々と交えて、地域総合防災力の充実に向けたパネルディスカッションを、当協会の秋本会長の司会進行役により実施しました。



シンポジウムの様子

【写真左から 秋本会長 中野事務局長 櫻澤会長 門前部長 中村局長 豊田教授】

はじめに、中野雅嗣NPO法人ふるさと未来創造堂事務局長から「新潟県長岡市で取り組む学校防災教育支援を切り口とした防災まちづくり」と題し、自然災害からみんなの命が守られる社会を実現するために、子どもも大人も皆で学び合う「防災共育」をきっかけにしたレジリエントな(災害に対する強靱性のある)人づくり・まちづくりについて発表がありました。

新潟県中越地震の経験が、中越の震災文化として残っていくように、災害種別ごとの新潟県防

災教育プログラムが県内全ての小・中・高校に配布されましたが、現状の学校教育の中では現場へ負担を与えた挙句、効果をもたらさないこともあり得るとの指摘がありました。そこで、長岡市では、多忙な学校現場の負担を軽減すべく、みんなで取り組む、防災教育体制の構築、すなわち地域と連携した防災教育を推進する政策が実施されていますが、その主体となっているのが、ふるさと未来創造堂です。中野事務局長からは、「防災王手箱」や「御用聞き」といった事業を通じて学校の防災教育を支援している様子や町内会、自主防災組織、消防団、社会福祉協議会、県や市町村、大学、企業等々、様々な地域の主体が「教育資源」としてこの動きに関わっていることが紹介されました。さらに、富山の薬売りをモデルにした「御用聞き」においては、学校訪問をするのは、当初、防災士の方でしたが、現在はその幅が広がり、様々な方が行っているとのことで、この点においても、地域内の多様な方々の連携ぶりを窺うことができました。

防災教育に取り組みたい学校をワンストップでフルサポートしているふるさと未来創造堂のユニークな活動ぶりは、防災教育の充実という主たる目的のほかにも、コミュニティ内の多様な主体の連携がもたらす地域防災への貢献の可能性を示す内容でした。

次に、櫻澤秀子新潟県女性防火クラブ連絡協議会会長・水沢女性防火クラブ会長から、水沢女性防火クラブによる地域内の連携ぶりについて、お話がありました。同女性防火クラブは、地域内の高齢者宅で発生した火災を受けて、高齢化が進むコミュニティ内の火災予防の重要性を認識したことをきっかけに、平成21年に9名で発足しましたが、その後、メンバーは大幅に増え、現在は42名で活動中です。活動資金は年間15万円と限られてはいますが、水沢地区振興会、十日町地区交通安全協会、水沢地区消防団、自治会長、小学校などとの連携により、パトロール巡回、訓練用消火器による地域内訪問、山火事注意の看板、防災かるた、防火しおり等の作成・配布など、非常に幅広い活動をしています。その活動ぶりが多くの方に知られ、地域外の学校からも要請を受け、避難訓練等を実施しています。また、高齢化が進む中、中越地震を教訓に自助の重要性に着目した「軍手体操」はテレビでも紹介されました。最後に、櫻澤会長からは、このようなメディアのおかげでクラブの存在や活動が周囲に認知、浸透され、様々な組織からの支援も得られやすくなってきているのを感じているのご発言がありました。高齢化が進み、予算に制約があるものの、幅広く、前向きに活動を継続する水沢女性防火クラブの活躍ぶりは、女性防火クラブのあり方だけでなく、地域内の連携による総合的な防災力向上という観点でも、素晴らしい参考事例であります。

事例発表後のパネルディスカッションでは、まず、門前浩司総務省消防庁国民保護・防災部長から地域の防災力を高めるためには、事例発表をされた2団体のように多様な主体がそれぞれの強みを生かしながら連携すること、また、横の繋がりを持つことは非常に重要であるとの認識が示されるとともに、関連する消防庁の取り組みが二つ紹介されました。一つ目は、多様な主体が連携した優れた取り組みを優良事例として全国に周知すること、二つ目は、全国のモデルとなり得るような取り組みに対する財政支援であり、具体的には、「消防団の力向上モデル事業」、「自主防災組織等活性化推進事業」などが紹介されました。また、本年2月に発生した岩手県大船渡市における林野火災の際、住民避難のために消防団や自主防災組織が活躍したことが伝えられるとともに、林野火災対応の面においても、自主防災組織や防災士など地域防災を支える多様な主体が参画したより実践的な避難訓練の実施の有効性などにも話が及びました。

次に、中村広栄新潟県防災局長からは、ふるさと未来創造堂が、災害の経験と教訓を次世代に



中野雅嗣
NPO法人ふるさと未来創造堂事務局長



櫻澤秀子
新潟県女性防火クラブ連絡協議会会長
水沢女性防火クラブ会長



門前浩司 総務省消防庁
国民保護・防災部長

継承するという観点から防災を地域の社会教育と位置づけ、まちづくりという広い観点からも様々な活動を行っているということを高く評価しつつ、現状の教員の負荷や自治体の人的資源に限りがあることを考えると、ふるさと未来創造堂に、引き続き、防災教育を担ってってもらいたいとの期待感が示されました。また、水沢女性防火クラブについては、高い防火意識とその行動力は、高齢化が進む新潟県内の地域にとっても、非常に参考になるとともに、切れ目のない活動をすることで、連携先の活動も活性化させるという良い循環ができているとの印象がある旨、お話しがありました。

中村局長からは、併せて、新潟県では豊かな自然がある一方、様々な災害を経験していることから、防災活動を行っている団体が多数存在し、県や市町村はこれらの組織と連携をしながら、住民啓発用の講習会やセミナーを行っていることや自治会が防災面で継続的に同じレベルで活動できるよう、自治会への助言等を行う「新潟県防災リーダー」の育成に努めていることなど、防災関係者の連携に関する県庁の施策の紹介もされました。

豊田光世新潟大学佐渡自然共生科学センター教授からは、水沢女性防火クラブは会員の数が増えており、かつ、多世代が参加していることで継続性という点で強いが、この要因は楽しみながら活動していることにあるのではないかとの見解が示されました。財源が限られた中で、どのように防災活動をするか、様々な工夫をしている様子が周りを引き付ける、支援しようと思わせると、考えられています。この点、櫻澤会長からは、自分たちはあくまでもボランティア団体なので、無理せず、参加できる時にのみ参加すればよいというスタンスで行っている旨、コメントがありました。ふるさと未来創造堂については、NPOがその活動をビジネスとして成立させるのは非常に大変な中、運営が上手くいっている理由は、新しいデザイン性や人に伝える力があるからではないかとのお話しがありました。「御用聞き」はユニークだが、NPO法人の職員が学校に出向くなどするのではなく、他の方々にやってもらうことで、御用聞きの方々が防災面で主体的に動くようになっているとも受け止められました。この点は、中野事務局長からも、御用聞きの方々の中には、元々、防災の知識はなかったが、活動を通じて、身に着けるようになっていく方も確かにいる旨のコメントがありました。

豊田教授からは、「ほうさいこくたい」の存在意義にも言及があり、コミュニティには良い取り組みがあっても埋もれてしまっていることもあるが、様々な出展者が集まる「ほうさいこくたい」は、防災関係者の存在を可視化する役割を果たしているとの見解も示されました。

セッションの終盤には、聴講者との質疑応答も行われ、消防団員の方から、「民間団体の方は、消防団との協力関係に何を期待するか？」と問われ、中野事務局長より「防災教育の観点で言えば、その場に消防団員が来てくれること自体がありがたく、子どもたちと一緒に考えてくれることで、消防団が憧れになっていくのではないか。」とのコメントがありました。

90分にわたるセッションは、秋本会長からの「地域総合防災力が重要ではあるが、簡単なことではない。今回の「ほうさいこくたい」が皆で力を合わせていくきっかけになることを期待する」との締めくくりコメントをもって、終了しました。



中村広栄 新潟県防災局長



豊田光世 新潟大学佐渡自然
共生科学センター教授



秋本敏文 日本消防協会会長

<https://bosai-kokutai.jp/2025/S-09/>

ほうさいこくたい2025 in 新潟

検索



令和7年度(第41回) 防火ポスターコンクール審査結果

(生協)全日本消防人共済会

生活協同組合全日本消防人共済会では、小学校4年生以上から中学生を対象とした防火ポスターコンクールを毎年行っています。

今年度も各都道府県の支部から選出された作品の中から、第1次審査及び第2次審査を厳正に実施した結果、最優秀賞作品に広島県福山市立鳳中学校1年 米田 莉子さんの作品が選ばれました。

最優秀賞作品については、令和7年度全国統一防火標語「**急ぐ日も 足止め火を止め 準備よし**」を掲載し、令和7年度の秋の全国火災予防運動にあわせて防火ポスターとして全国に配布いたします。

たくさんのご応募ありがとうございました。

最優秀賞



広島県福山市立鳳中学校 1年 米田 莉子さん

最優秀賞

(1名)

広島県 福山市立鳳中学校 1年 米田莉子さん

優秀賞

(3名)

長野県 辰野町立辰野東小学校 6年 松井咲桜さん

熊本県 天草市立本渡東中学校 2年 難波志帆さん

埼玉県 日高市立高萩中学校 2年 長澤芽吹さん

佳作

(6名)

岐阜県 神戸町立神戸中学校 1年 粟野利音さん

岐阜県 輪之内町立仁木小学校 4年 田中勇成さん

福岡県 大牟田市立大正小学校 6年 西原あかりさん

福岡県 糸島市立長糸小学校 6年 西真樹子さん

和歌山県 有田川町立石垣小学校 4年 高垣湊右さん

島根県 出雲市立河南中学校 2年 井戸成美さん

優秀賞



長野県 辰野町立辰野東小学校 6年
松井 咲桜さん



熊本県 天草市立本渡東中学校 2年
難波 志帆さん



埼玉県 日高市立高萩中学校 2年
長澤 芽吹さん

消防育英会臨時理事会を開催

(公財)消防育英会

令和7年9月24日(水)、日本消防会館において「令和7年度消防育英会臨時理事会」を開催しました。

1 議 事

第1号議案 奨学生選考委員会委員の選出について

第2号議案 令和8年度(公財)JKA補助金の要望について

2 報告事項

(1) 役員等の変更について

(2) 令和7年度奨学生の申請及び判定状況等について

(3) 令和7年度奨学生懇談会の実施結果について

議事については、異議なく承認されました。



理事会の様子

本会の奨学金の財源の一部には、公益財団法人 JKA の「競輪公益資金」が当てられています。





「消防団員の負担軽減と独自の取り組みについて」

新潟県 村上市消防本部・村上市消防団

村上市は新潟県の最北端に位置し、団の4月実員数は1,764名となっています。地域的に少子高齢化が進んでおり、消防団にとっても同様の実情がありますが、だからこそ団員確保の対策が求められている状況です。寄稿の機会を頂きましたので、団員の負担軽減対策や村上市消防団独自の取り組みについて紹介いたします。

- ① **新入団員教育**：方面隊単位で行っていた新入団員の教育を「辞令交付式・新入団員講習」として一元化し、事務の軽減、指導する団幹部の負担軽減、教育内容の統一化を図りました。
- ② **ポンプ操法競技会**：方面隊単位で春季演習と併せて行っていたポンプ操法競技会を一元化し、事務の軽減、同一の審査員による審査を行うことで公平性向上を図りました。
- ③ **火災予防の啓発活動**：消防団車両で警鐘を鳴らしながら地域を巡回する啓発活動を行っておりますが、分団ごとに活動時間の上限を提示しました。これによって、特定の部や団員が連日活動する必要が無いように輪番制で活動するなどの効率化を進め、団員の負担軽減を図りました。
- ④ **消防水利管理の負担軽減**：村上市の土地柄、消防水利は除雪や草刈り作業を要し、労務的には消防団や周辺住民が支えています。消火栓の更新や移設の際には、「多雪型消火栓に変更する」、「消雪パイプが設置されている道路では地下式消火栓に変更する」、「過密な水利配置の場合には廃止する」の3点を考慮し、負担軽減を進めています。
- ⑤ **配備資機材等の取り扱い参考書の作成**：当消防団の団員は事務職や工場勤務の割合が増加し、農業や建設業の割合が減少する傾向にあります。農機具や建設機器などを通じて機械の管理・取り扱いに長けた団員が減少しており、村上市消防団では機材の操作・管理方法を分かり易く解説した資機材の取り扱い参考書を独自に作成し、各部に配布するとともに村上市消防団のホームページに掲載しました。



辞令交付式・新入団員講習



村上市消防団

配備機材等の取り扱い参考書

とても簡単、お手軽な！ 真空試験

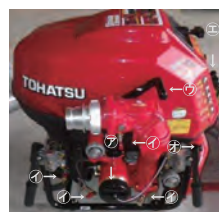
- ① 吸気キャップを付ける
- ② 排水バルブを全て閉める
- ③ 放水口を閉じる
- ④ 燃料バルブを開き、エンジンを掛ける
- ⑤ 真空レバーを引く

上記の状態で行うと、速成計のメーターがマイナスに動きます。

速成計の針がマイナスから右方向に返ってくる場合は、ポンプ内で真空漏れが起きています。

若干の真空漏れがあっても、1分くらいマイナスを維持できる場合は、機水と放水には支障がない状態です。

古いポンプは多少やむを得ない場合もあります



配備資機材の取り扱い参考書

うちの

名物団員



新潟県

胎内市消防団 女性消防隊 隊長

鈴木 知子

胎内市消防団からは、女性消防隊の鈴木知子隊長を紹介します。

鈴木さんは、平成26年から入団し、現在では、女性消防団員の隊長として火災予防の啓発活動や応急手当普及員として、地域の防災訓練などに出向き、市民の安心安全のため日々尽力されています。ご主人が元消防団の分団長であったこともあり、団員には、『家族にも感謝してね。』といつも優しく語りかけています。

親しみやすい人柄で、みんなから愛され、何でも積極的に取り組む鈴木隊長のさらなる今後の活躍を期待しています。



千葉県

成田市消防団 副団長

せき けいいち
關 恵一

成田市消防団からは關恵一副団長を紹介します。統率力と誠実な人柄、地域の安全・安心を守るために活動する姿はまさに頼りになる存在です。仕事と地域活動の両立で忙しい日々を送っていますが、地元のお祭りでは、華麗なお囃子で、会場を盛り上げるお祭り男でもあります。これからも、

關副団長の活躍から目が離せません。



石川県

小松市消防団 第9栗津分団 団員

こさか みゆう
小坂 美優

石川県小松市消防団からは、第9栗津分団の小坂美優さんを紹介합니다。

普段は介護士として働く小坂さん。当時の分団長に声をかけられたことがきっかけで「介護の経験や視点が生かせるかも」と思い、平成31年度に入団。

分団では紅一点ですが、今年度のポンプ車操法大会にも、1番員として出場したほか、現在、防災士の資格取得にも挑戦中。今後の更なる活躍が期待されます。



神戸市垂水消防団の森本喜久団長を紹介します。普段は、介護施設の職員として働いており、施設でも消防隊長、救急隊長として昼夜を問わず防災の職務にあたっています。平成8年に救急インストラクターの資格を取得し、施設に新入職員を迎える度にAEDによる心肺蘇生法の講習を行っています。また、施設の入居者の皆さんからは、消防団のお兄さんと愛されています。色々な人から愛される団長を支えながら地域の安全・安心を守ります。



吉賀町消防団からは、上山豊和団員を紹介します。

上山団員は本部分団に所属しており、本部分団は主に保育園、ふれあいサロン、町内のイベント等で火災予防の寸劇、紙芝居などを行い、啓発活動に取り組んでいます。

上山団員が所属する本部分団は女性団員が多い中、数少ない男性団員として、卓越した演技力から欠かせない存在となっています。

仕事や家庭がある中、消防団活動に尽力されている上山団員の今後の活躍に期待しています。



江田島市消防団からは、村上分団長を紹介します。

分団長は農園業を生業としており、大切に育てた花々は、なんと！ひろしまフラワーフェスティバルでの花の塔や、会場を彩る花に採用されている他、花き品評会では農林水産大臣賞も受賞しています。

見た目はワイルドですが「笑顔が素敵な」花のプロ。

育てるペチュニアの花言葉のように、市民に「心の安らぎ」を与え、団員からも慕われる、市消防団の中で一番の大所帯(団員数)を取りまとめる若きリーダーです。



神戸市西消防団
団長

穴田 泰久



神戸市西消防署との連携訓練

神戸市西区は、神戸市最西部に位置し、神戸市の約4分の1の面積を占めている緑の多い地域で、近年は大規模なニュータウン開発と区画整理事業が進んだことで、市内最多の人口を有する地域となりました。

この地域を管轄する神戸市西消防団は、玉津・伊川谷・櫛谷・押部谷・平野・神出・岩岡の7支団・定数1,430名で構成される神戸市内で最大規模の消防団です。

先代からの伝統を守りながら、時代に即応できる組織を目指して、月に一度、各支団本部役員が一堂に会し、「西消防団団長支団長会議」を開催するなど、全員が一体感を持って消防団活動に取り組んでいます。

最も特徴的な活動が隔年開催の「西消防団ポンプ操法競技会」です。指揮者1名3個分隊16名の計17名が3台の小型動力ポンプと9本のホースを延長して標的を落下させるま

での時間を競うもので、来年の開催で第58回を数えます。

水利が遠隔で、自然水利が多い西区の地域特性を鑑みた訓練内容ですが、阪神・淡路大震災の際には、西消防団は市内で火災被害の大きかった長田区へ出動し、水利が少ない中、市民プールから何台もの小型動力ポンプを連結し、100本を超えるホース延長を実施し、水利の確保に努めました。混乱する現場でしたが、出動した誰もが訓練で培った技術と知識を活かして、プールの水が底をつくまで放水活動を行うことができました。この経験の伝承も競技会が担う役割のひとつです。

昨年は、南海トラフ地震臨時情報が運用開始以来初めて発令されており、また西区が活断層である山崎断層に近接する位置にあることから、いつ発生するかも知れない災害に備えて、地域防災力の要である私たち西消防団は精進を続けます。



神戸市西消防団ポンプ操法競技会

2025年度 全国統一防火標語

「急ぐ日も 足止め火を止め 準備よし」

令和7年11月・12月の日本消防協会関係行事

- 11月13日(木) 第30回全国女性消防団員活性化長崎大会(長崎県長崎市)
11月19日(水) 日中韓消防協会会議(ソウル)
12月26日(金) 全日本消防人共済会 防火ポスター・作文コンクール表彰式

編集後記

編集担当TKです。何も予定のない休日の昼下がり、退屈な気分を振り払おうと近所の川沿いをランニングしていたところ、タカを連れて散歩をしているご夫婦に出会いました。驚いてお話を伺うと、正確には南米産のノスリの仲間だと教えていただきました。

タカは人間の8以上の倍の視力を持ち、数百メートル上空からでも地上の小動物の動きを見分けることができるそうです。そして、獲物を見つけると翼をすぼめて急降下し、鋭い爪で一瞬にして捕らえます。

近年は消防も“鳥の目”を手に入れました。そう、ドローンです。上空からの映像をはじめとした高い情報収集能力は、各種災害現場での活用でその効果が実証されており、今ではなくてはならない装備という印象です。ドローン隊を整備しておられる消防団さんも増えていると聞いています。私も水難救助訓練などで使用した経験があり、その搜索能力の高さに驚いたのを覚えています。もちろん映像だけでなく、物資運搬、災害地図の作成や災害情報伝達など、ここでは書ききれないくらい様々な可能性を秘めていると感じています。

タカとの偶然の出会いから、退屈な午後が楽しい時間となりました。季節の変わり目、皆様風邪など引かぬようご自愛ください。



※ノスリ…タカ目タカ科ノスリ属。中型の猛禽類で、日本では冬鳥としてよく見られ、バードウォッチングでも人気のある鳥。

購読募集

購読を希望される方は、(公財)日本消防協会へお問い合わせください。

※ 年間購読料(送料込) 2,508円
(問合せ先) 総務部企画担当 03-6263-9496

寄稿のお願い

皆さまの消防団活動への取り組み、ご意見などをもとに、より充実した有意義なものにしていきたいと考えておりますので、多数のご寄稿をお待ちしています。

Eメールでも受け付けしています。 kikou@nissho.or.jp

月刊「日本消防」第七十八巻第十号
令和七年十月五日印刷
令和七年十月十日発行

編集人 米澤健

発行所 (公財)日本消防協会

東京都港区虎ノ門二丁目十九番十六

電話 〇三(6263)九四〇一(代)

印刷所

東京都中央区銀座七丁目一六―二二

株式会社アイネット

電話 〇三(3549)五六〇〇

消防人の 火災共済

風水雪害等共済金

補償倍率UP

300倍から750倍へ

消防団員
消防職員
ならなくても
加入できます

まさかの時お役に立ちます。

地震等災害見舞金付

掛金25口、2,500円 (56%以上の焼損)
火災共済金375万円のお支払い

1500倍補償

B型火災共済

消防団
消防本部

毎に皆で加入

掛金は、5口500円から5口毎、25口2,500円まで選択できます。

落雷の損害
にも対応!!

建物と動産の配分は常に4:1とする契約となります。

お申し込みは、所属の消防団担当から都道府県支部（消防協会）へ。



お支払
対象

●火災共済金

火災・落雷・爆発・破裂

●風水雪害等共済金

風災・水災・雪災・車両飛び込み・航空機墜落等

●地震等災害見舞金

地震・津波・噴火

生活協同組合 全日本消防人共済会 TEL 03-6263-9822
詳しくはホームページをご覧ください <https://www.shouboujin.or.jp/>

消防団員・消防職員だからこそ加入できる

消防個人年金

積立金には予定利率（年1.25%）、配当率が適用されます。

老後生活に向けた
計画的な財産形成
が可能です。

月払の場合、
毎月一万円（ゆうちょ
銀行は五千円）から
ご加入いただけます。

給付金の受取りは、
年金（6種類）又は
一時金からご選択
いただけます。

途中で脱退しても、
積立金（脱退一時金）
が受け取れます。

税制適格コースは
個人年金保険料控除
自由選択コースは
一般の生命保険料控除
の対象となります。

消防団員、消防職員
の退団・退職後も
継続できます。

（パンフレット・加入申込書のお取り寄せ、お問い合わせ先）

公益財団法人 日本消防協会 年金共済部

0120-658-494 平日 9:00～17:00

お問い合わせ先

各市町村の消防事務担当者または消防本部消防団事務担当者、都道府県消防協会

（公財）日本消防協会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門二丁目9番16号
TEL.(03)6263-9401（代表）
<https://www.nissho.or.jp>